

(1) 基本的な考え方

総合計画に掲げる「めざす将来像」や「まちづくりの理念」は、鳥取市の将来を見据えて長期的に取り組む姿勢を示すものであり、今後もその実現に向けて取り組んでいくために設定するものです。

次期計画の策定にあたっては、現計画の評価やコロナ禍で大きく変化した社会・経済情勢等を踏まえながら、市民の意見を十分に聞いたうえで、「鳥取市のめざすべき姿」としての将来像、理念を設定します。

【市民等参加事業について（次ページ以降）】

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ➤ 市民等参加事業について | ・・・ 2ページ |
| ➤ 鳥取市民アンケート結果（速報・要点版） | ・・・ 3～23ページ |
| ➤ 学生アンケート結果（速報・要点版） | ・・・ 24～31ページ |
| ➤ まちづくりワークショップ（速報・要点版） | ・・・ 32ページ |
| ➤ 地方創生ストリートミーティング（速報・要点版） | ・・・ 33～35ページ |

①市民等参加事業について（令和6年度）

2

目的	手法	性質	取組	回	対象	人数/回数/時期等
幅広く定量的な 基礎資料の収集	アンケート	・ 市政全般 ・ 選択式設問による定量的意見 ・ あなたの考える「将来像」や「より良いまちにするためにできること」について自由記述	市民アンケート	-	15歳以上の市民	[調査時期] 7月10日～8月12日 [回答数] 1,800件
		・ 進学/就職について ・ 将来的な定住/鳥取市との関わり方について ・ 選択式設問による定量的意見	高校生アンケート	-	市内高校生 （鳥取商業高校、鳥取城北高校、鳥取東高校）	[調査時期] 7月 [回答数] 401件
			大学生アンケート	-	市内大学生 （鳥取大学、鳥取環境大学）	[調査時期] 7月 [回答数] 222件
個別テーマの 定性的な 意見聴取	意見交換	・ 総合計画基本構想に関わる「鳥取市の将来」を見据えた議論 ・ 人口減少/地方創生に関連するテーマ ・ 開催回ごとに個別テーマ設定 ・ テーマに応じて市役所若手職員が同席 ・ 意見交換による定性的意見	ワークショップ	第1回 鳥取市の未来をみんなで考えよう	鳥取市内在住または通勤・通学する中学生以上の人	[開催日] 7月21日（日） [参加者] 40人
				第2回 みんなが移住したくなるまちにUターン編	鳥取市へ移住した人、移住する人のサポートをしている人、移住したい人	[開催日] 9月8日（日） [参加者] 27人
				第3回 子育てするなら鳥取市！編	将来子育てしたい人、仕事と子育てを両立したい人、子育てする人を応援したい人、子育て環境整備に携わる人	[開催日] 9月29日（日） [参加者] 21人
				第4回	（鳥取で活躍する若者世代）	[開催日] 10月26日（土）
		・ 人口減少/地方創生に関連するテーマ ・ 開催回ごとに個別テーマ設定 ・ 意見交換による定性的意見	地方創生ストリートミーティング	第1回 県外で活躍している学生のこえを聞こう～鳥取市出身学生編～	市長、鳥取市出身で県外在住の学生	[開催日] 8月22日（木） [参加者] 7人
				第2回 県外で活躍している若者のこえを聞こう～鳥取市出身社会人編～	市長、鳥取市出身で県外在住の社会人	[開催日] 8月28日（水） [参加者] 5人
				第3回 デジタル技術を活用し、鳥取市で充実した生活を送ろう	市長、デジタル技術を活用した仕事をし、鳥取市で生活している人	[開催日] 9月19日（木） [参加者] 6人
				第4回	市長、鳥取市で生活する外国人	10～11月頃に実施予定

鳥取市民アンケート調査報告書(速報・要点版) 3

調査の概要

- ◆調査の目的:本アンケート調査は、市民の日常生活におけるくらしの満足度等を把握し、今後の事業実施及び次期総合計画策定の基礎資料として活用することを目的に実施した。
- ◆対象者:15歳以上の鳥取市民
- ◆調査手法:住民基本台帳から上記対象者を無作為抽出し、郵送調査
(回答は郵送による返信もしくはWEBフォームからの回答)
- ◆調査票送付者 4,000人のうち回答者 1,800人(回答率45.0%)
- ◆調査期間:令和6年7月10日から8月12日

報告書の見方・注意点

- ①集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ②2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- ③クロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数・回答者数は一致しない場合がある。
- ④図表によっては、回答割合の高い順に並べ替えている場合がある。

主な調査結果のポイント

4

1. 住みやすさ(暮らし)への満足度の上位項目は大きく変化していないが、雇用等社会の変化から満足度に変化がみられるものがある。
2. 市民の誇りは、恵まれた自然環境や安心して暮らせる住環境。定住意向も高いが、特に若者層の一部は住みにくさを感じている様子。
3. 現子育て世代は、子育て施策に一定の評価をしているが、“子育て”を一括りにせず、細かく施策を分析することが必要。
4. コロナ禍を経て、地域社会との関わりが薄くなっているが、まちのために何か行動したい人も半数程度いる。
5. デジタルサービスは浸透してきている。年代に応じたメディア利用や動画等を活用した説明、アプリ共通化等の必要も。
6. 地域活動に対する重要度が下がってきている。重点改善分野など施策に継続して取り組んでいく必要がある。

1.

住みやすさ(暮らし)への満足度の上位項目は大きく変化していないが、雇用等社会の変化から満足度に変化がみられるものがある。

5

(1.-1)暮らしの満足度の上位項目は大きく変わっていない。

1位 山、川、海などの自然環境
(R1年1位 H26年1位)

2位 公共下水などの生活雑排水処理
(R1年3位 H26年2位)

3位 騒音、悪臭などの公害発生防止
(R1年2位 H26年 5位)

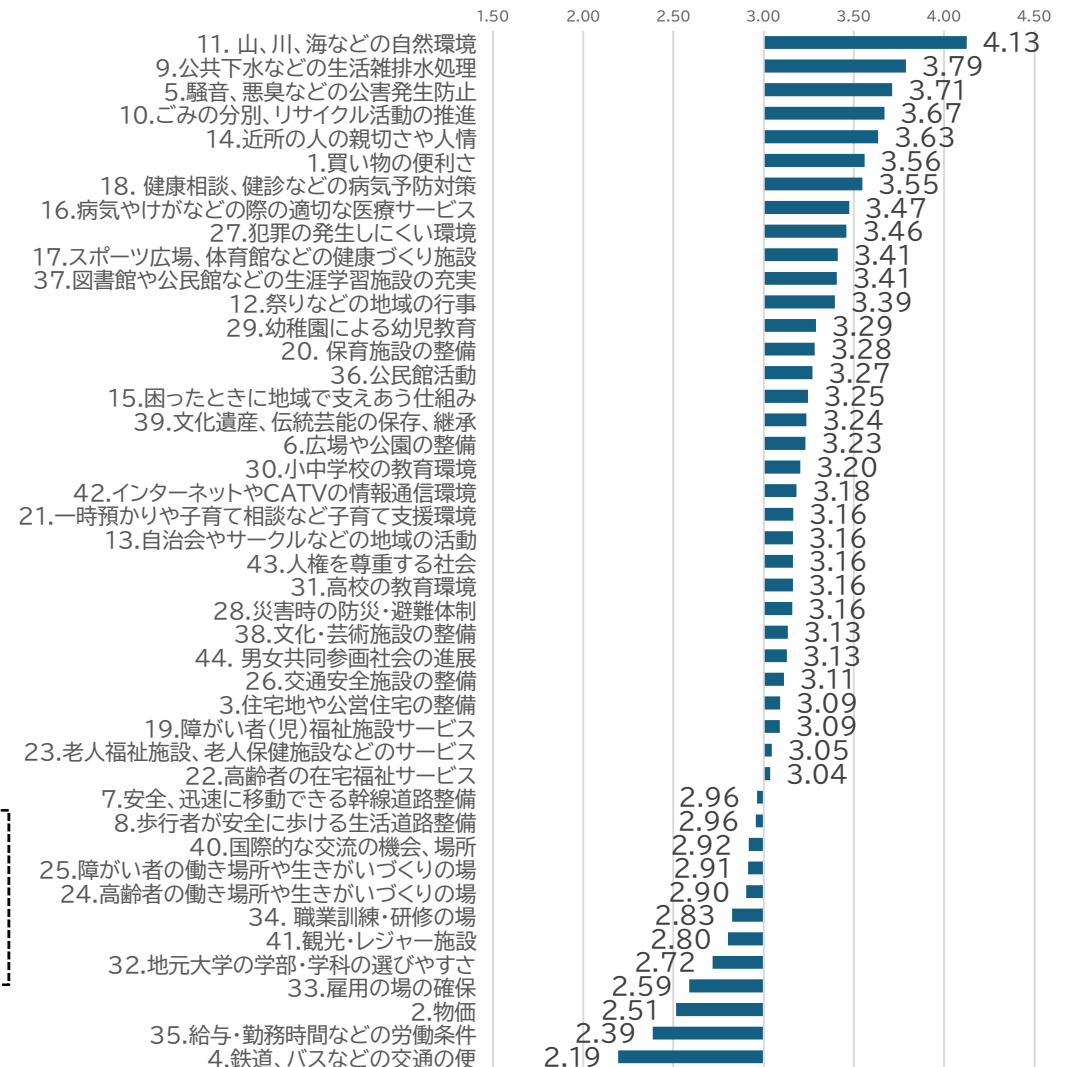
4位 ごみの分別、リサイクル活動の推進
(R1年5位 H26年 4位)

5位 近所の人の親切さや人情
(R1年4位 H26年 3位)

数値について:

選択肢のうち、「満足」を5点「やや満足」を4点「やや不満」を2点「不満」を1点「わからない」を3点にしてそれぞれの回答数を全体回答数で割ったもので得点化している

問:住まいの地域の住みやすさについて、どの程度満足されていますか



問：住まいの地域の住みやすさについて、どの程度満足されていますか(前回・前々回比較)

(1.-2)10年のスパンでみると、プラス・マイナスのポイントの差がみられるものがある。

▶10年前と比べプラス幅が大きいもの

雇用の場の確保	+0.45ポイント
職業訓練・研修の場	+0.29ポイント
子育て支援環境	+0.22ポイント
高齢者の働き場所や生きがい	+0.20ポイント
安全に歩ける生活環境整備	+0.18ポイント
男女共同参画社会の推進	+0.17ポイント
災害時の防災・避難体制	+0.16ポイント

▶10年前と比べマイナスとなったもの

自治会やサークルなど地域の活動	-0.14ポイント
鉄道、バスなどの交通の便	-0.11ポイント
公民館活動	-0.10ポイント
祭りなどの地域の行事	-0.05ポイント
幹線道路整備	-0.04ポイント
物価	-0.04ポイント
犯罪の発生しにくい環境	-0.03ポイント
生涯学習施設の充実	-0.02ポイント
近所の人の親切さや人情	-0.01ポイント

	R6	R1	H26	10年前比	5年前比
11. 山、川、海などの自然環境	4.13	4.05	4.03	0.10	0.08
9. 公共下水などの生活雑排水処理	3.79	3.78	3.74	0.05	0.01
5. 騒音、悪臭などの公害発生防止	3.71	3.83	3.62	0.09	-0.12
10. ごみの分別、リサイクル活動の推進	3.67	3.58	3.64	0.03	0.09
14. 近所の人の親切さや人情	3.63	3.68	3.64	-0.01	-0.05
1. 買い物の便利さ	3.56	3.47	3.49	0.07	0.09
18. 健康相談、健診などの病気予防対策	3.55	3.49	3.46	0.09	0.06
16. 病気やけがなどの際の適切な医療サービス	3.47	3.44	3.36	0.11	0.03
27. 犯罪の発生しにくい環境	3.46	3.58	3.49	-0.03	-0.12
17. スポーツ広場、体育館などの健康づくり施設	3.41	3.23	3.24	0.17	0.18
37. 図書館や公民館などの生涯学習施設の充実	3.41	3.34	3.43	-0.02	0.07
12. 祭りなどの地域の行事	3.39	3.44	3.44	-0.05	-0.05
29. 幼稚園による幼児教育	3.29	3.27	3.19	0.10	0.02
20. 保育施設の整備	3.28	3.25	3.15	0.13	0.03
36. 公民館活動	3.27	3.30	3.37	-0.10	-0.03
15. 困ったときに地域で支えあう仕組み	3.25	3.26	3.24	0.01	-0.01
39. 文化遺産、伝統芸能の保存、継承	3.24	3.14	3.15	0.09	0.10
6. 広場や公園の整備	3.23	3.20	3.22	0.01	0.03
30. 小中学校の教育環境	3.20	3.20	3.14	0.06	0.00
42. インターネットやCATVの情報通信環境	3.18	3.12	3.08	0.10	0.06
21. 一時預かりや子育て相談など子育て支援環境	3.16	3.09	2.94	0.22	0.07
13. 自治会やサークルなどの地域の活動	3.16	3.20	3.30	-0.14	-0.04
43. 人権を尊重する社会	3.16	3.16	3.05	0.11	0.00
31. 高校の教育環境	3.16	3.16	3.04	0.12	0.00
28. 災害時の防災・避難体制	3.16	3.03	3.00	0.16	0.13
38. 文化・芸術施設の整備	3.13	2.98	3.09	0.04	0.15
44. 男女共同参画社会の進展	3.13	3.07	2.96	0.17	0.06
26. 交通安全施設の整備	3.11	3.06	3.08	0.03	0.05
3. 住宅地や公営住宅の整備	3.09	3.14	3.03	0.06	-0.05
19. 障がい者(児)福祉施設サービス	3.09	3.12	3.05	0.04	-0.03
23. 老人福祉施設、老人保健施設などのサービス	3.05	3.01	2.96	0.09	0.04
22. 高齢者の在宅福祉サービス	3.04	3.03	2.91	0.13	0.01
7. 安全、迅速に移動できる幹線道路整備	2.96	3.15	3.00	-0.04	-0.19
8. 歩行者が安全に歩ける生活道路整備	2.96	2.86	2.78	0.18	0.10
40. 国際的な交流の機会、場所	2.92	2.91	2.87	0.05	0.01
25. 障がい者の働き場所や生きがいづくりの場	2.91	-	-	-	-
24. 高齢者の働き場所や生きがいづくりの場	2.90	2.87	2.70	0.20	0.03
34. 職業訓練・研修の場	2.83	2.70	2.54	0.29	0.13
41. 観光・レジャー施設	2.80	2.65	2.62	0.18	0.15
32. 地元大学の学部・学科の選びやすさ	2.72	2.67	2.70	0.02	0.05
33. 雇用の場の確保	2.59	2.38	2.14	0.45	0.21
2. 物価	2.51	3.11	2.55	-0.04	-0.60
35. 給与・勤務時間などの労働条件	2.39	2.23	2.20	0.19	0.16
4. 鉄道、バスなどの交通の便	2.19	2.16	2.30	-0.11	0.03

問：住まいの地域の住みやすさについて、どの程度満足されていますか(前々回比較／年齢別分析)

(1.－3)雇用の確保については、近年の人手不足の影響も考えられる。

近年の働き手不足の影響のほか、特に高齢者(現70代以上世代)のポイントが上がっていることなどが、全体を押し上げている要因と考えられる。

(1.－4)下がっている項目は、特に回答者数の多い現70代以上世代の影響があると考えられる。

この世代の下落が全体を押し下げている要因と考えられる。

	雇用の場の確保について		職業訓練・研修の場について		給与・勤務時間などの労働条件について	
	H26	R6	H26	R6	H26	R6
全体	2.14	2.59	2.54	2.83	2.20	2.39
10代	2.72	3.15	3.01	3.33	2.71	2.88
20代	2.07	2.92	2.67	3.13	1.90	2.41
30代	2.05	2.50	2.56	2.70	2.06	2.19
40代	1.98	2.46	2.40	2.79	1.93	2.12
50代	1.88	2.45	2.32	2.74	1.99	2.28
60代	2.18	2.47	2.56	2.70	2.32	2.32
70代以上	2.45	2.74	2.71	2.92	2.62	2.70

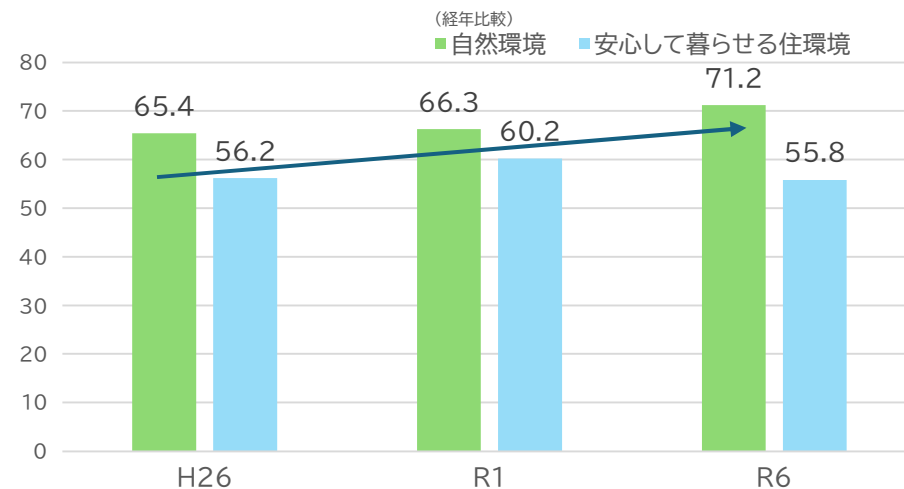
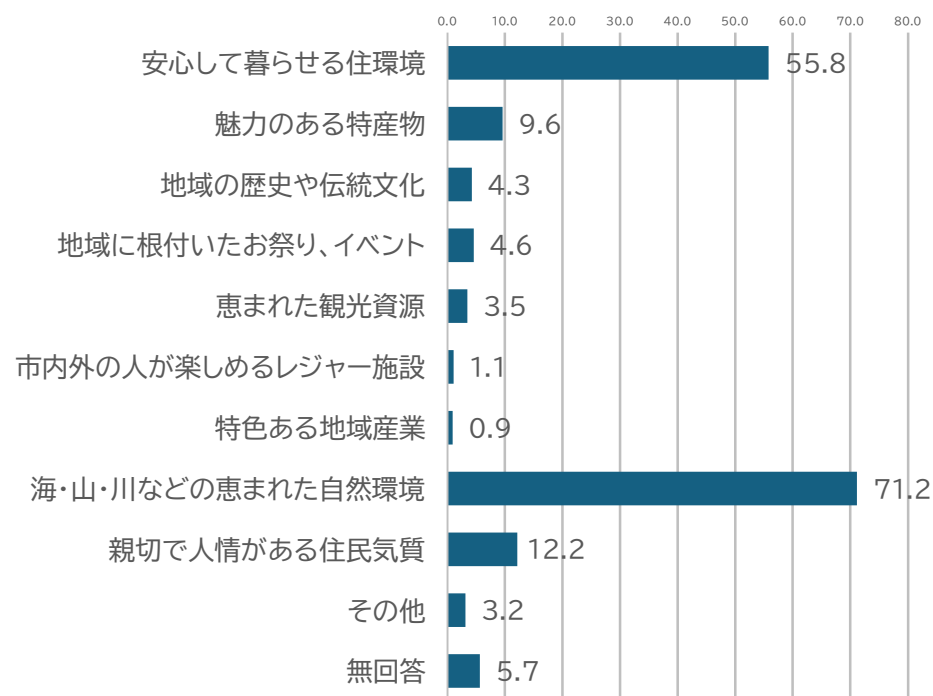
	自治会やサークルなど地域の活動		鉄道、バスなどの交通の便		公民館活動	
	H26	R6	H26	R6	H26	R6
全体	3.30	3.16	2.30	2.19	3.37	3.27
10代	3.66	3.54	2.12	2.31	3.47	3.63
20代	3.21	3.36	1.80	1.98	3.22	3.27
30代	3.28	3.04	2.12	2.15	3.23	3.14
40代	3.15	3.01	2.05	2.02	3.37	3.23
50代	3.11	3.24	2.03	2.00	3.21	3.29
60代	3.42	3.09	2.55	2.24	3.41	3.28
70代以上	3.43	3.22	2.77	2.45	3.60	3.28

市民の誇りは、恵まれた自然環境や安心して暮らせる住環境。定住意向も高いが、特に若者層の一部は住みにくさを感じている様子。

問：あなたが鳥取市について誇りに思うことは何ですか。(2つまで)の中の上位項目

(2.-1) 自然環境・住環境が上位2つ。

海・山・川などの恵まれた自然環境については、一貫して上昇傾向。全体は71.2%に対して、子育て中の人は高め。安心して暮らせる住環境については、5年前にいったん上昇したが、今回はほぼ10年前と同じ値になった。全体55.8%に対して、30代・40代が低めである。



年齢別・子育て年齢別	海・山・川などの恵まれた自然環境	安心して暮らせる住環境
全体	71.2	55.8
10代	56.0	60.0
20代	64.2	56.0
30代	75.6	50.8
40代	69.6	50.4
50代	70.6	56.8
60代	75.3	61.1
70代以上	71.2	55.6
小学生以上を子育てしている	76.9	57.3
就学前児童を子育てしている	77.9	53.4

問：鳥取市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感じますか。

(2.－2)全体では10年間で大きく変わっていないが、居住年数別や世代によって「感じていない」と回答する人の割合が高くなる。

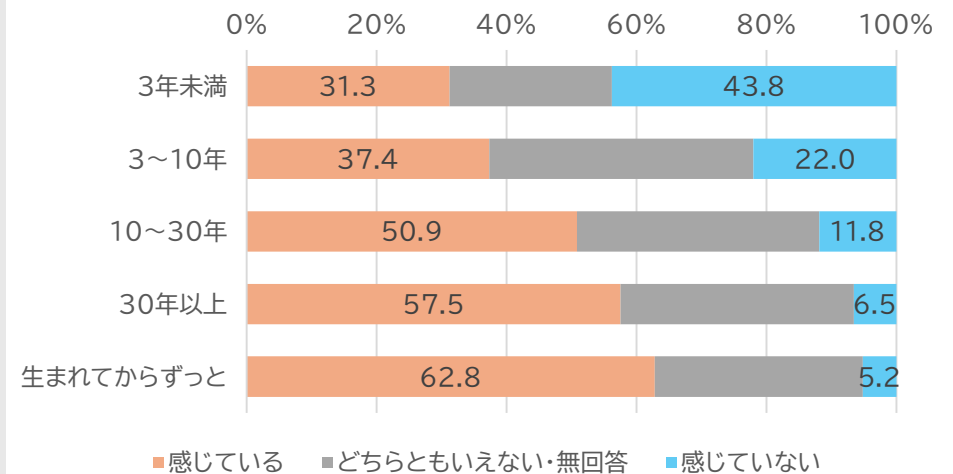
「感じている」に注目するとH26：56.6%⇒R1：61.5%⇒R6：55.9%と、ほぼ10年前に戻っている。

「感じていない」に注目すると、H26：10.0%⇒R1：8.5%⇒R6：9.0%と大きな差はない。

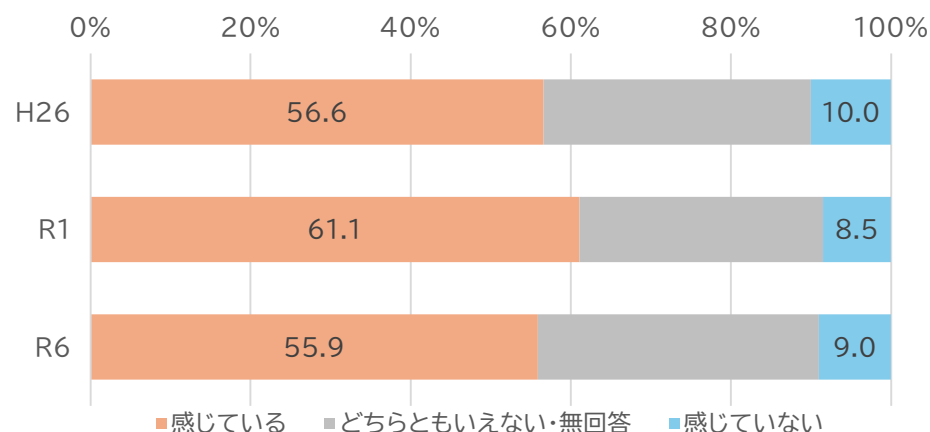
居住年数別では、居住年数が長いと親しみを感ずる人の割合が高くなる。

年齢では、10代は感じている人の割合が高いが、20代は感じていないの割合が高くなり、年齢が高くなるほど減っていくという傾向がみられる。

鳥取市への愛着・親しみを感ずるか (R6年居住年数別)



鳥取市への愛着・親しみを感ずるか

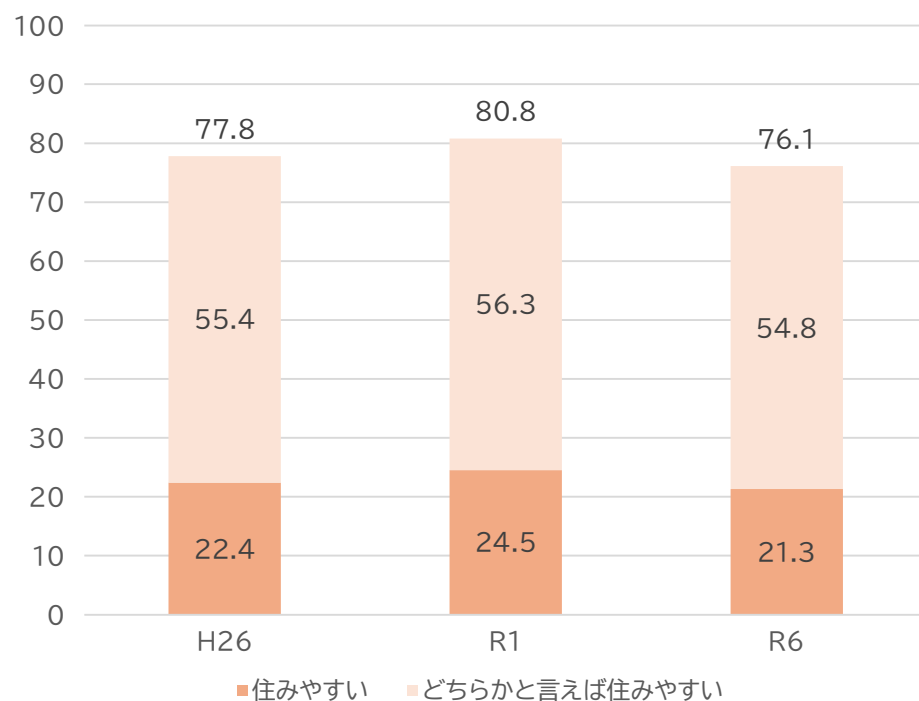


	感じている	感じていない	どちらともいえない
全体	55.9	9.0	31.2
男性	54.5	11.4	30.2
女性	58.3	6.9	31.1
10代	66.7	4.0	25.3
20代	55.0	16.5	26.6
30代	56.0	14.0	28.5
40代	51.4	11.6	33.7
50代	55.8	9.2	31.7
60代	54.3	6.8	33.6
70代以上	58.6	6.1	30.9

問:お住まいの地域の住みやすさについてどのようにお考えですか。

(2-3)全体では10年間で大きく変わっていないが、若年世代に寄って“住みにくい”と回答する人の割合が高くなる。

住みやすい+どちらかと言えば住みやすいの合計値は、H26:77.8%、R1:80.8%、R6:76.1%とこの10年では最も低い大きな差は見られない。
属性別も特に“住みやすい”については、大きな差は見られないが、“住みにくい”に着目すると、10代・20代の値がやや高めになっている。

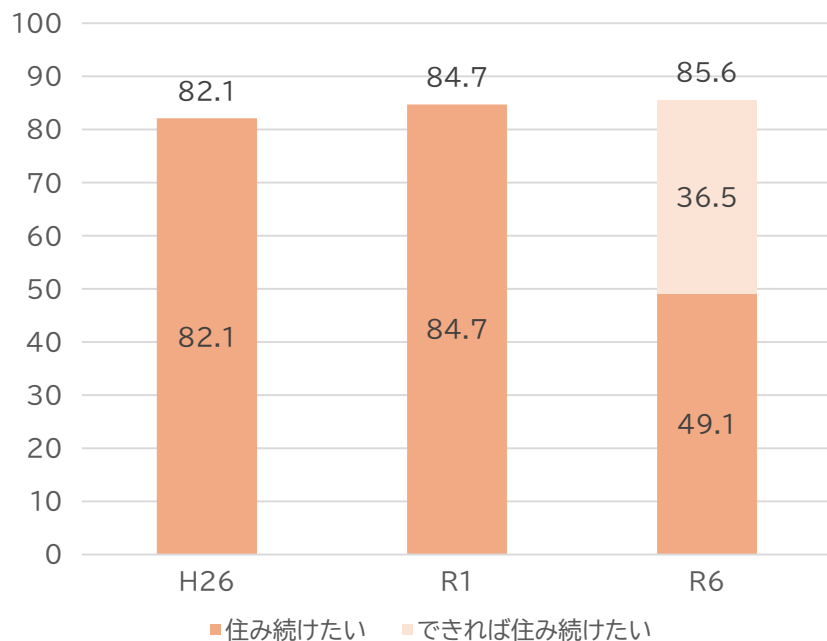


	とても住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらかといえば住みにくい	とても住みにくい	何ともいえない	無回答
全体	21.3	54.8	8.1	2.1	10.2	3.6
男性	22.1	54.2	8.6	2.6	8.9	3.6
女性	20.7	56.1	7.7	1.7	10.5	3.3
10代	24.0	48.0	13.3	1.3	10.7	2.7
20代	20.2	53.2	12.8	2.8	9.2	1.8
30代	21.2	58.5	7.3	3.1	8.3	1.6
40代	22.5	56.5	8.0	1.8	8.3	2.9
50代	23.1	55.1	8.9	2.3	7.3	3.3
60代	22.0	53.5	7.6	1.5	11.1	4.3
70代以上	18.7	54.5	6.3	2.0	13.7	4.7
鳥取市出身(県外居住経験はない)	25.2	50.9	7.2	1.6	11.2	3.9
鳥取市出身(県外居住経験はない)	20.2	56.3	9.5	2.6	8.4	2.9
鳥取市出身ではない(県外居住経験はない)	15.5	55.5	5.5	2.7	17.3	3.6
鳥取市出身ではない(県外居住経験がある)	17.1	60.2	8.4	2.2	9.2	3.0
小学生以上を子育てしている(n=225)	26.2	55.6	6.2	0.9	8.9	2.2
就学前児童を子育てしている(n=131)	22.1	60.3	5.3	2.3	7.6	2.3

問：鳥取市に今後も住み続けたいと思いますか。

(2-4) 今後の定住意向も増加傾向。一方で若者やIターン者の考え方には不安も。

前回と聞き方が異なるために単純な比較はできないが、住み続けたいという意向のある人は全体で85.6%である。特に10代・20代で「住み続けたい」と明確に言い切れる人の割合が低く、“市外で暮らしたい”と回答する人の割合が高くなる。(全体が11.0%であるのに対し、10代:41.3% 20代:25.7%)
また、県外から来たいわゆるIターン者も住み続けたいという意向が低い。



	住み続けたい	できれば住み続けたい	できれば市外で暮らしたい	市外で暮らしたい
全体	49.1	36.5	7.6	3.4
10代	17.3	41.3	24.0	17.3
20代	25.7	47.7	13.8	11.9
30代	44.6	42.5	8.3	3.1
40代	41.7	41.7	11.6	2.5
50代	46.2	38.9	5.9	4.0
60代	54.8	35.1	5.6	1.0
70代以上	64.0	26.8	3.4	1.4
鳥取市出身(県外居住経験はない)	57.2	32.0	5.6	1.8
鳥取市出身(県外居住経験がある)	49.4	37.4	6.6	2.4
鳥取市出身ではない(県外居住経験はない)	49.1	32.7	12.7	3.6
鳥取市出身ではない(県外居住経験がある)	32.2	45.8	11.7	8.1

問:若者が定住するために、どのようなことが効果的だと思いますか。(3つまで)

(2-5)“若者”とひとくくりにせず、その意向を細やかに確認をすることが重要

前回特に若い人の意見を中心に確認すると、若者と括るのではなく、性・年齢別や、どの年齢の子どもを育てているか、という軸で細かく見ていくことが必要だということが分かった。○は全体より10ポイント以上高いもの

	全体	就職・転職支援	起業支援	企業誘致	地域資源の活用	農林水産物の生産振興	住宅購入・家賃の支援	道路などの基盤整備	公共交通機関の充実	教育環境の充実	子育て支援の充実	中心市街地の活性化などまちの賑わいづくり	医療・福祉の充実	防犯・防災など安全安心の確保	自然環境の保全	市民活動の充実	観光・交流の充実	文化・芸術の振興	若者の出会い(婚活支援)	市の知名度向上(シティセールス)	中山間地域(田舎)暮らしの確保	娯楽施設や商業施設の立地	その他	無回答
全体	100	62.8	9.6	29.9	2.6	3.6	20.4	5.9	15.1	9.3	35.6	10.7	17.8	5.0	2.9	0.8	3.1	1.7	10	3.2	5.6	19.2	1.5	4.3
男性-10代	100	63.9	13.9	13.9	2.8	8.3	22.2	8.3	22.2	13.9	16.7	25.0	8.3	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	2.8	0.0	36.1	0.0	8.3
男性-20代	100	45.0	7.5	20.0	0.0	5.0	27.5	7.5	25.0	10.0	17.5	15.0	7.5	2.5	2.5	0.0	7.5	0.0	15.0	2.5	7.5	37.5	2.5	2.5
男性-30代	100	62.7	12.0	34.9	1.2	6.0	31.3	6.0	9.6	7.2	47.0	10.8	12.0	1.2	0.0	0.0	6.0	0.0	8.4	2.4	1.2	26.5	1.2	1.2
男性-就学前児童を子育てしている	100	60.3	12.1	41.4	1.7	0.0	15.5	3.4	6.9	12.1	53.4	6.9	8.6	1.7	1.7	0.0	5.2	1.7	8.6	5.2	6.9	31.0	1.7	1.7
男性-小学生以上を子育てしている	100	57.5	14.9	42.5	2.3	6.9	23.0	9.2	9.2	14.9	39.1	9.2	8.0	3.4	2.3	0.0	5.7	0.0	9.2	3.4	4.6	24.1	3.4	1.1
女性-10代	100	50.0	7.9	18.4	0.0	0.0	21.1	0.0	28.9	7.9	31.6	18.4	13.2	7.9	2.6	0.0	10.5	0.0	5.3	5.3	0.0	28.9	2.6	2.6
女性-20代	100	57.8	4.7	18.8	0.0	0.0	32.8	1.6	21.9	4.7	39.1	7.8	14.1	1.6	1.6	0.0	1.6	0.0	1.6	1.6	3.1	48.4	0.0	6.3
女性-30代	100	64.1	11.7	12.6	1.9	1.9	34.0	4.9	13.6	6.8	54.4	10.7	14.6	1.9	1.9	0.0	2.9	1.9	2.9	2.9	1.9	30.1	1.9	4.9
女性-就学前児童を子育てしている	100	57.7	8.5	12.7	2.8	1.4	18.3	7.0	11.3	12.7	62.0	12.7	18.3	2.8	2.8	0.0	2.8	0.0	4.2	0.0	0.0	26.8	4.2	8.5
女性-小学生以上を子育てしている	100	75.2	13.5	22.6	4.5	2.3	24.1	6.8	17.3	18.0	36.8	12.0	10.5	3.0	1.5	0.0	2.3	1.5	3.8	2.3	2.3	23.3	1.5	0.8

3.

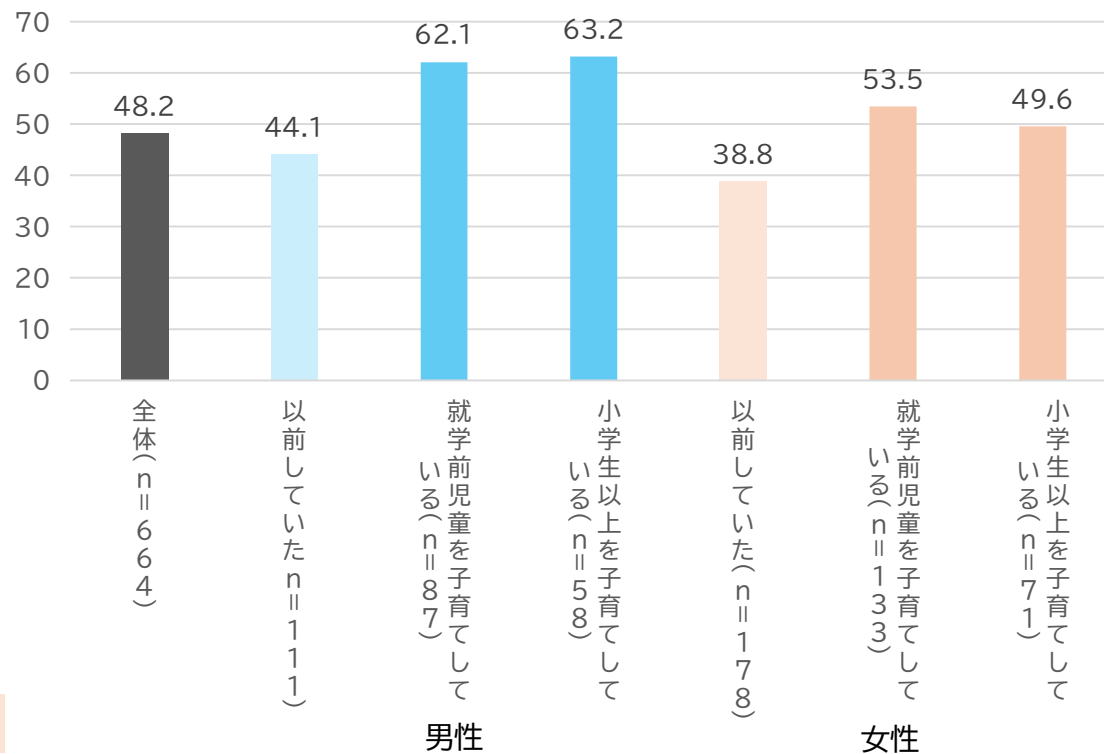
現子育て世代は、子育て施策に一定の評価をしているが、“子育て”を一括りにせず、細かく施策を分析することが必要。

問：鳥取市は、子育てしやすい環境だと思いますか。(しやすい／しやすかった の回答)

(3.－1)子育ての環境は現役男性世代の評価が高い。

子育てのしやすさについては、特に「男性」が、子育てしやすいと回答している。逆に「以前していた」という回答者(子育てが終わった人)は、子育てがしやすいという回答が全体より低い。

このことから、鳥取市の子育ての環境は、かつての子育て層の時代に比べて改善しているという様子が窺われる。



問：困ったときに助けてくれる人がいますか。

(3.－2)移住者を中心に、助けてくれる人がいないと回答。

鳥取出身ではない人は助けてくれる人が居なかったと回答する人が約5人に1人いることがわかった。

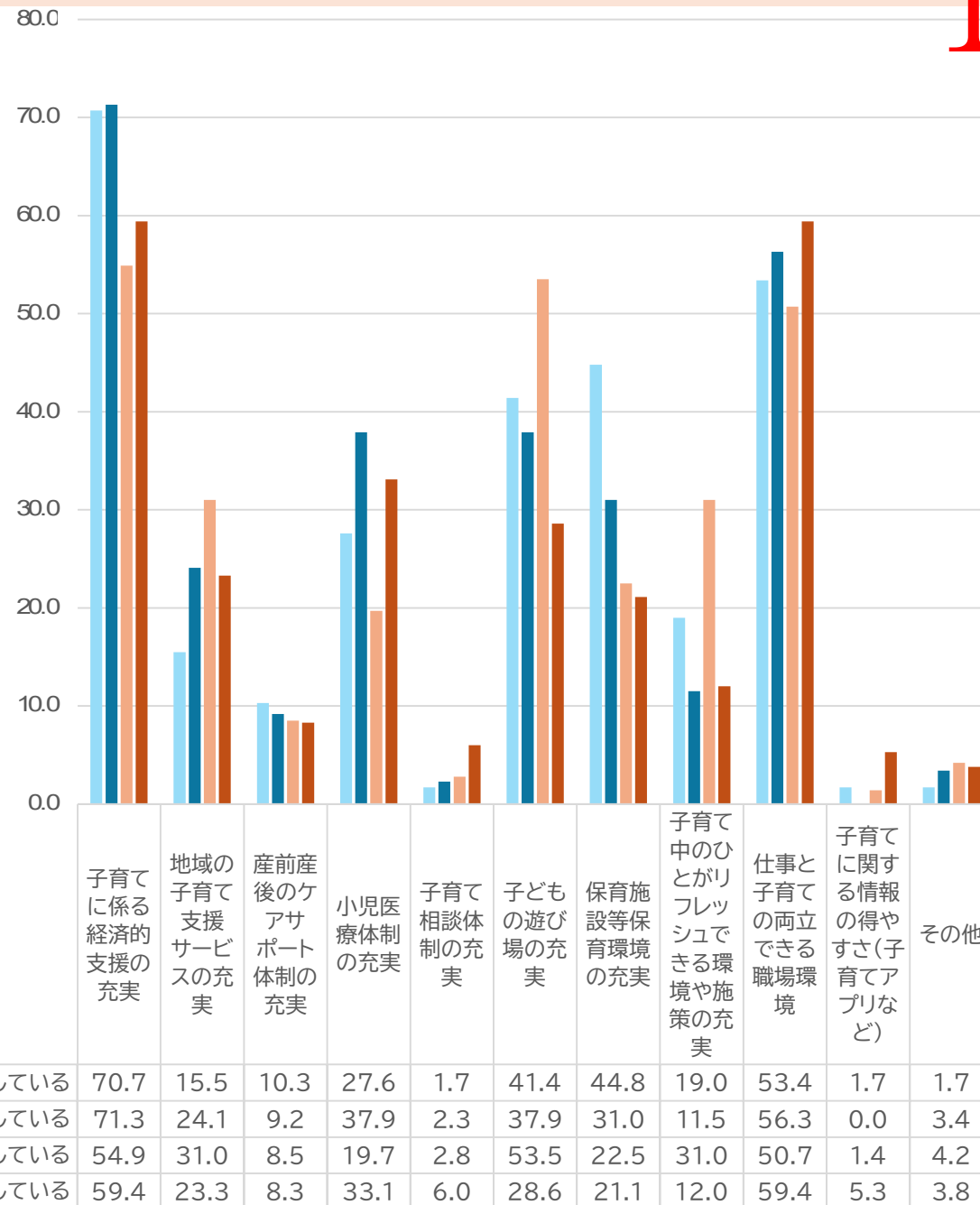
	いる(いた)	いない(いなかった)	無回答
全体	79.8	8.9	11.3
鳥取市出身(県外居住経験はない)	83.4	5.0	11.6
鳥取市出身(県外居住経験がある)	84.1	5.6	10.3
鳥取市出身ではない(県外居住経験はない)	81.3	4.2	14.6
鳥取市出身ではない(県外居住経験がある)	70.9	18.9	10.3

問：子育てしやすい環境にするには、何が必要だと思いますか。(3つまで)

(3.－3)「子育て」と一言でまとめるのではなく、父親・母親の役割や何歳の子どもを育てているかによって随分と違うことが分かった。

主な回答の高い項目と属性

- ▶経済的支援は父親。
- ▶子育て支援や子供の遊び場・リフレッシュできる環境は、就学前の子育て中の母親。
- ▶小児医療体制は就学後の父親・母親。
- ▶相談体制や仕事と子育ての両立環境は就学後の母親。



4.

コロナ禍を経て、地域社会との関わりが薄くなっているが、まちのために何か行動したい人も半数程度いる。

15

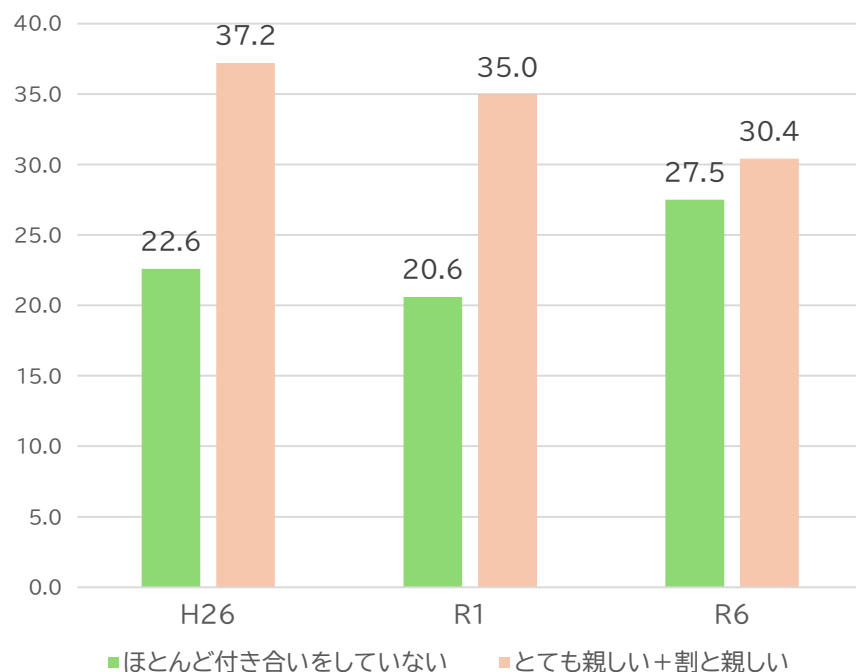
問:ご近所づきあいほどの程度ですか。

(4-1)近所づきあいで親しさが失われつつある。またほとんど付き合いをしていない人も増えている。年齢ではなく生年(世代)による影響が大きいと思われる。

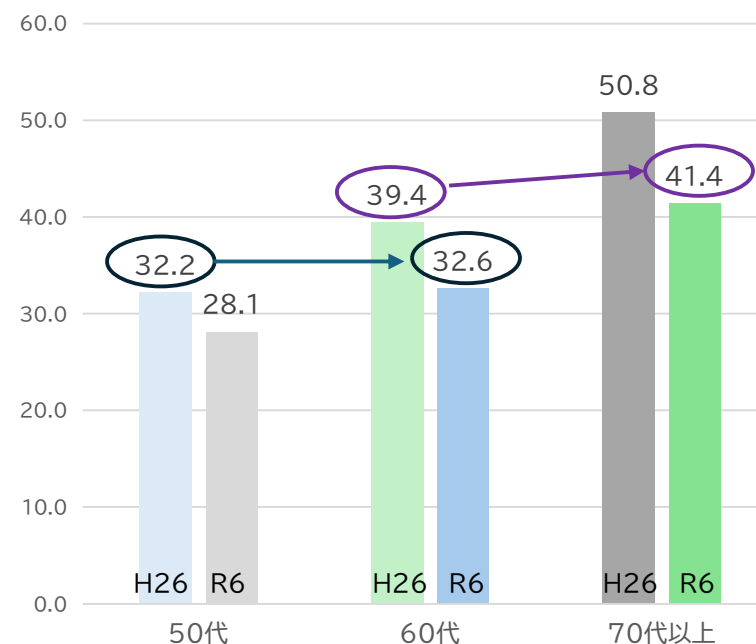
「ほとんど付き合いをしていない」という回答が10年前・5年前と比べて増えている。逆に「とても親しい+割と親しい」の合計値は減っている。

10年前と年齢別で比べると、同じ世代(例: H26年調査時の50歳代は、10年後のR6年は60歳代)の回答は大きく変わらない。つまり年齢を重ねると近所づきあいが増すというのではなく、世代による要因が大きいことが読み取れる。

近所づきあいの程度



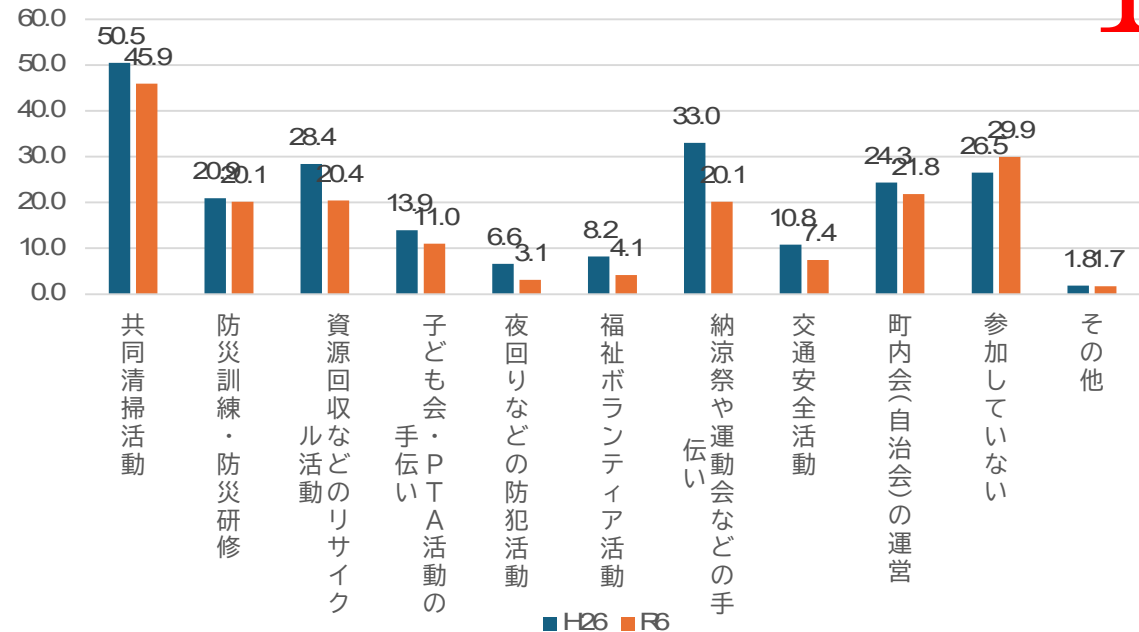
とても親しい+割と親しいの割合



問：過去1年にあなたが参加した地域の活動がありますか。（複数回答）

（4-2）コロナによる地域活動の自粛の影響があるのではないか。

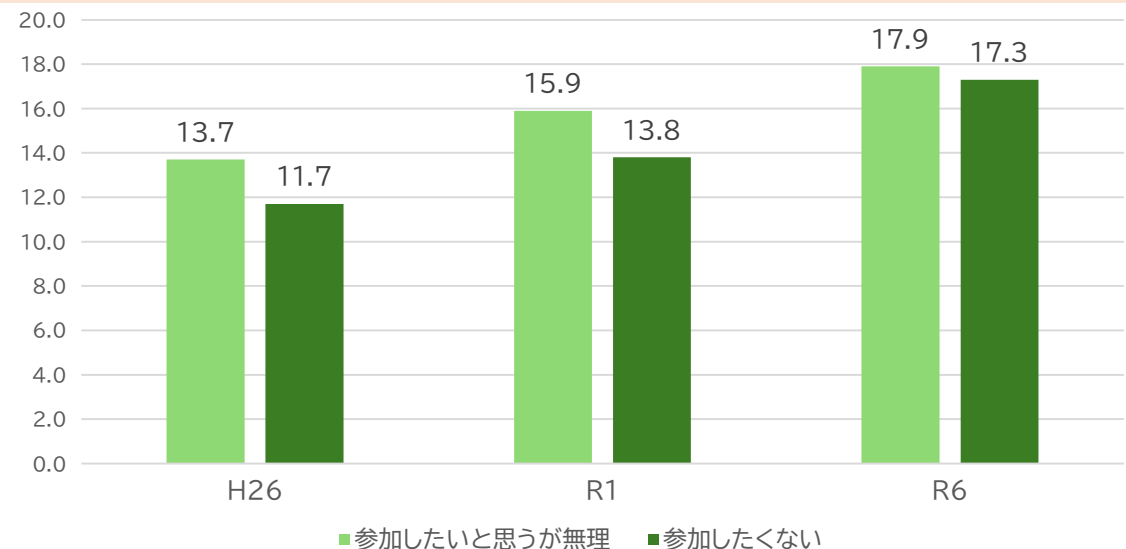
10年前と比べると、資源回収などのリサイクル活動や、納涼祭や運動会などの手伝いのスコアが軒並み下がっているほか、全体的にみてもスコアが低下している。コロナによる地域活動ができなかった時期を経ていることが影響にあるのではないか。



問：今後、地域の活動へ参加したいと思いますか。

（4-3）参加したくないとはっきり言う人の割合が高くなっている。

この10年で一貫して伸びており、全体の3分の1強が参加の難しさを表明している。



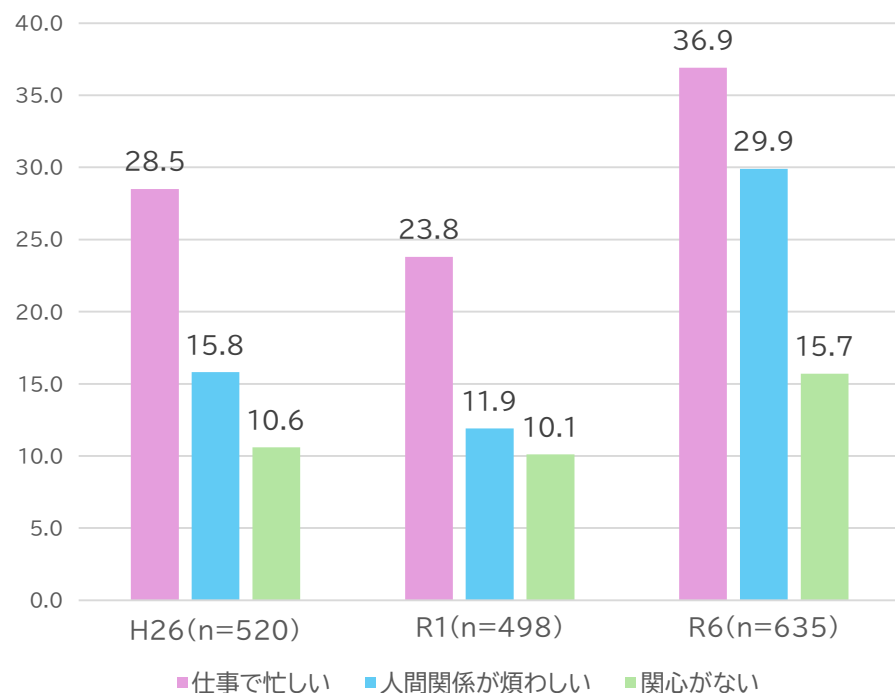
問:今後、地域の活動へ参加したいと思いますか。

(4-4)地域活動に参加しない理由で「人間関係が煩わしい」「関心がない」などと回答する人が増えている。

これも、コロナによる人との関わりの変化から来ていると考えられる。

ただし若い人だけではないことに注目する必要がある。
(人間関係が煩わしいは40～60代が全体平均より高め)

地域活動への参加を妨げる原因(上位)



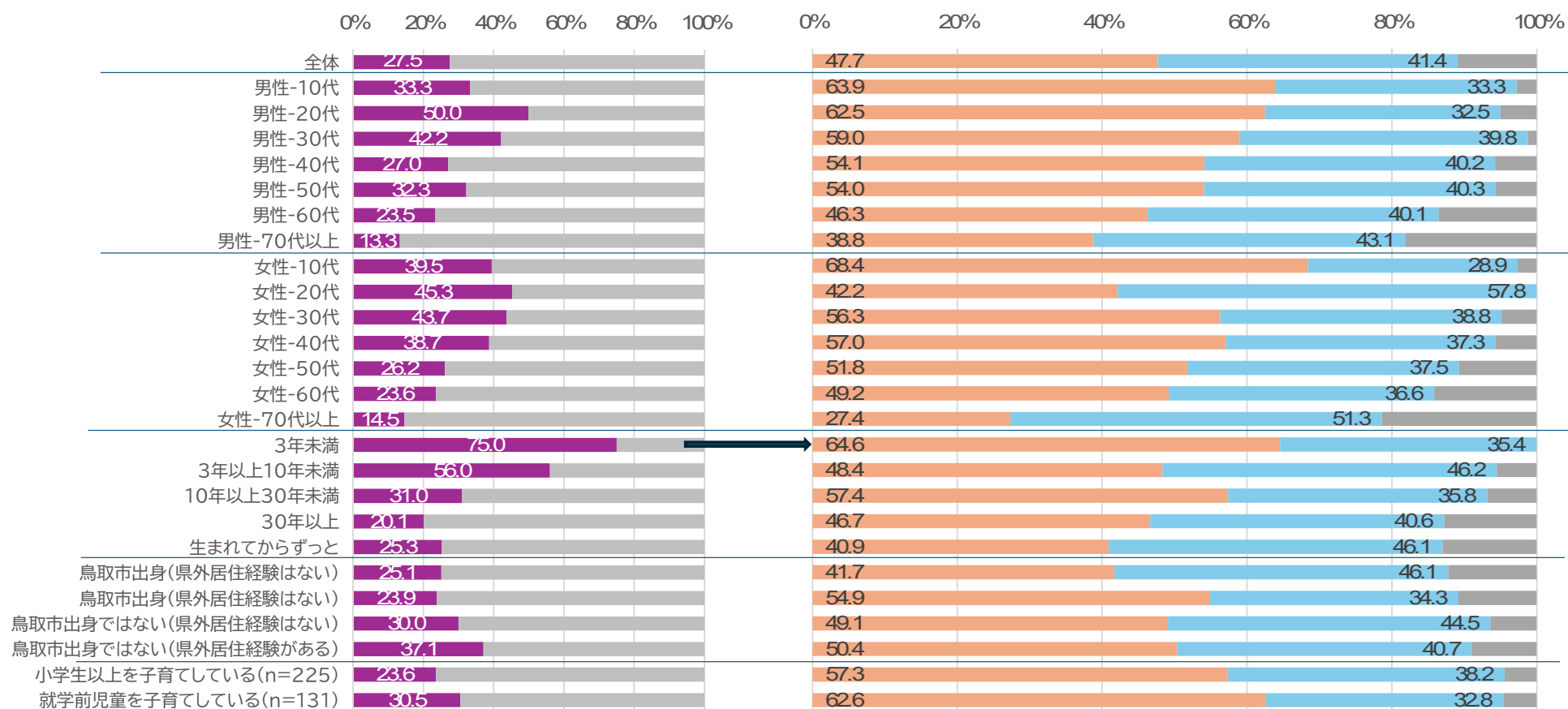
	仕事で忙しい 参加する時間がない	家事・育児・介護などで時間がない	人間関係がわずらわしい	地域と一緒に参加する仲間がいない	自分が参加するメリットや必然性を 感じない	身近にどんな活動があるのか情報が ない	余暇の時間を割いてまで参加しよう と思わない	興味・関心がない	その他	無回答
全体	36.9	14.6	29.9	11.8	14.5	7.7	20.9	15.7	12.9	1.3
10代	20.0	8.0	20.0	16.0	16.0	12.0	16.0	36.0	8.0	0.0
20代	33.3	8.9	24.4	20.0	24.4	15.6	17.8	26.7	4.4	0.0
30代	58.2	25.3	22.8	8.9	11.4	12.7	21.5	15.2	2.5	1.3
40代	44.3	18.0	40.2	9.0	17.2	2.5	32.8	9.8	6.6	1.6
50代	54.0	11.5	33.6	12.4	11.5	6.2	22.1	12.4	6.2	0.9
60代	36.5	13.0	31.3	13.0	12.2	7.8	14.8	13.9	14.8	0.0
70代以上	8.2	11.9	24.6	11.2	14.2	7.5	14.9	18.7	32.8	3.0

(4-5)よりよい街にするための行動は、全体では「思う」の方が「思わない」より割合が高い。
 注目すべき点は、在住3年未満の方は、近所づきあいは「ほとんど付き合いをしていない」が75.0%という回答であるが、「よりよいまちにするために、何か行動をしたい」も64.6%と全体より高い。

問:ご近所づきあいはどの程度ですか。

問:より良いまちにするために、何か行動したいと思いますか

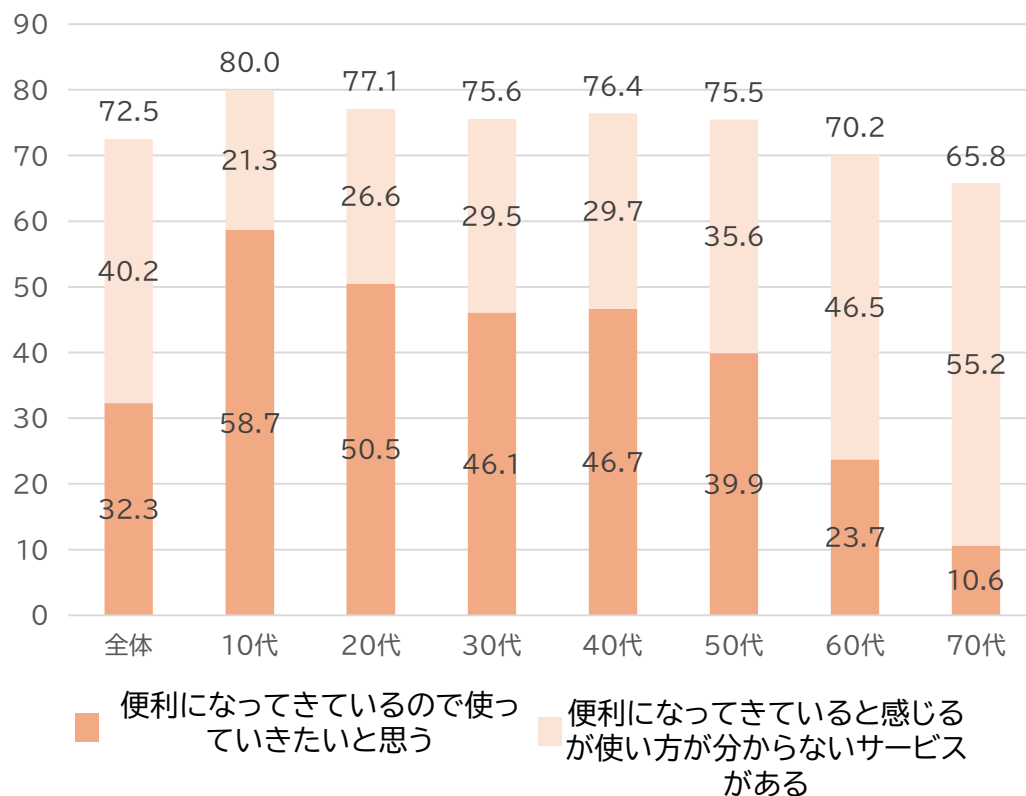
ご近所づきあいはどの程度ですかの問いに
 「ほとんど付き合いをしていない」と回答した
 人の割合



(5-1) デジタル化によって便利と感じるのは全体では7割強。

70代であっても「便利と感じる」と回答したのは65.8%。支障になっている主な回答について、高齢者の方がやや高めではあるが、若年層でも使い勝手に課題を感じている人はいる。

問：あなたは行政サービスのデジタル化に対してどう感じますか。



問：あなたにとってデジタルによる行政サービス利用の支障になっているものは何ですか(主な回答)

	デジタルサービスの利用申請が面倒である	アプリなどのサービスが複数あり分かりにくい
全体	34.9	30.8
10代	24.0	18.7
20代	29.4	25.7
30代	32.1	26.9
40代	32.2	31.9
50代	33.3	26.1
60代	41.9	38.6
70代以上	35.6	31.8

問：デジタルを活用したサービスをどのような手法で学びたいですか。

(5-2)動画による取得を学びたい人が最も多い。

対面が多いのは60代以上。動画は30・40代を中心に高くなっている。マニュアルはどの年代もほぼ変わらない。

	対面による講習 (スマートフォン 教室など)	くわしいマニ アル(文書)での習 得	動画による習得
全体	21.7	23.6	35.2
男性	21.7	24.5	37.3
女性	22.0	23.1	33.0
10代	16.0	14.7	32.0
20代	6.4	20.2	37.6
30代	8.8	21.2	41.5
40代	9.8	23.9	41.3
50代	19.8	20.8	39.6
60代	34.1	27.5	39.6
70代以上	30.0	24.5	21.6

問：あなたは次にあげるインターネットサービスを活用していますか。
【あてはまる項目全てにチェック】

(5-3)LINEの利用率は圧倒的。各メディアごとに主な利用年齢層に差がある。

LINEとYoutubeがメインの情報インフラとみられる。その他のSNSは年代によって利用率に差があるため、ターゲットに応じたメディア利用が必要。

	LINE	Faceb ook	Instag ram	Youtu be	X	TikTok
全体	78.9	14.6	32.4	56.8	23.4	15.1
10代	94.7	9.3	77.3	93.3	60.0	57.3
20代	95.4	11.0	77.1	87.2	71.6	41.3
30代	92.2	26.4	57.5	80.8	48.7	24.9
40代	94.2	26.1	50.7	81.2	30.8	18.1
50代	85.8	19.5	38.9	64.7	24.4	14.5
60代	80.1	10.1	16.4	48.7	9.3	8.3
70代以上	51.1	5.0	1.8	19.4	2.0	1.8
小学生以上子育て	94.7	23.1	50.7	76.9	26.2	20.0
就学前児童子育て	97.7	34.4	67.2	86.3	41.2	29.0

(6.-1)平均で下回っているのが、公民館活動、祭りなどの地域の行事、自治会やサークルなどの地域の活動。

満足度と同様の計算式で行った。
1位が買物の便利さと適切な医療サービスが同じ得点でトップ。次いで、災害時の防災・避難体制、給与・勤務時間などの労働条件、雇用の場の確保、物価、などが続く。

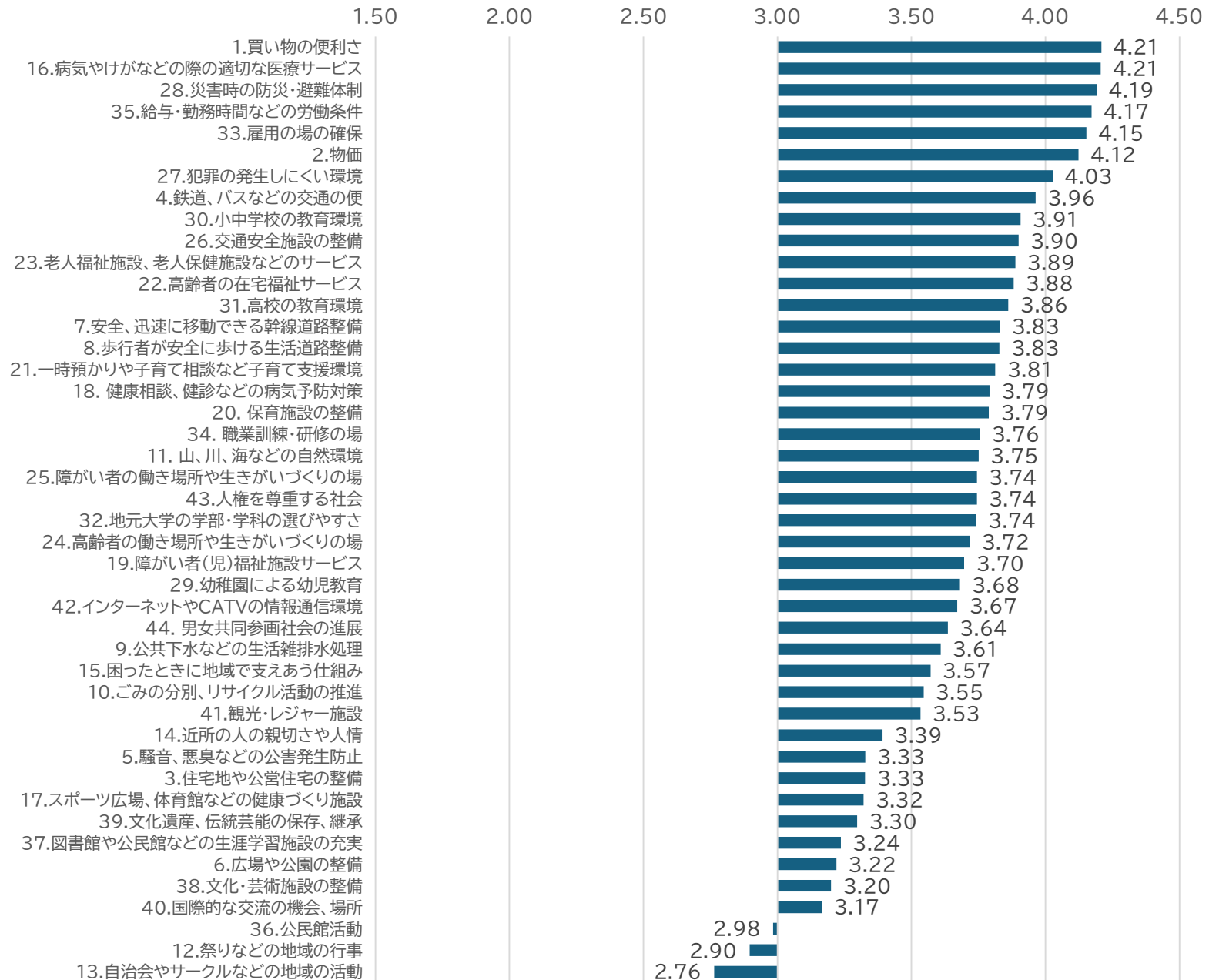
5段階評価の3を平均で下回っているのが、公民館活動、祭りなどの地域の行事、自治会やサークルなどの地域の活動である。

(1.-6)満足度と重要度の関係を図にした散布図を作成した。4つのマトリクスに分け、「重点改善分野(右上)」「改善分野(右下)」「重点維持分野(左上)」「維持分野(左下)」の4分野に分けている。(次々ページ参照)

「重点改善分野(右上)」は次の通り

- 4.鉄道、バスなどの交通の便
- 35.給与・勤務時間などの労働条件
- 2.物価
- 33.雇用の場の確保
- 32.地元大学の学部・学科の選びやすさ
- 34.職業訓練・研修の場
- 24.高齢者の働き場所や生きがいづくりの場
- 25.障がい者の働き場所や生きがいづくりの場
- 8.歩行者が安全に歩ける生活道路整備
- 7.安全、迅速に移動できる幹線道路整備
- 22.高齢者の在宅福祉サービス
- 23.老人福祉施設、老人保健施設などのサービス
- 19.障がい者(児)福祉施設サービス
- 26.交通安全施設の整備
- 28.災害時の防災・避難体制

問:これからのまちづくりに、次にあげる項目はどの程度重要だと思いますか。

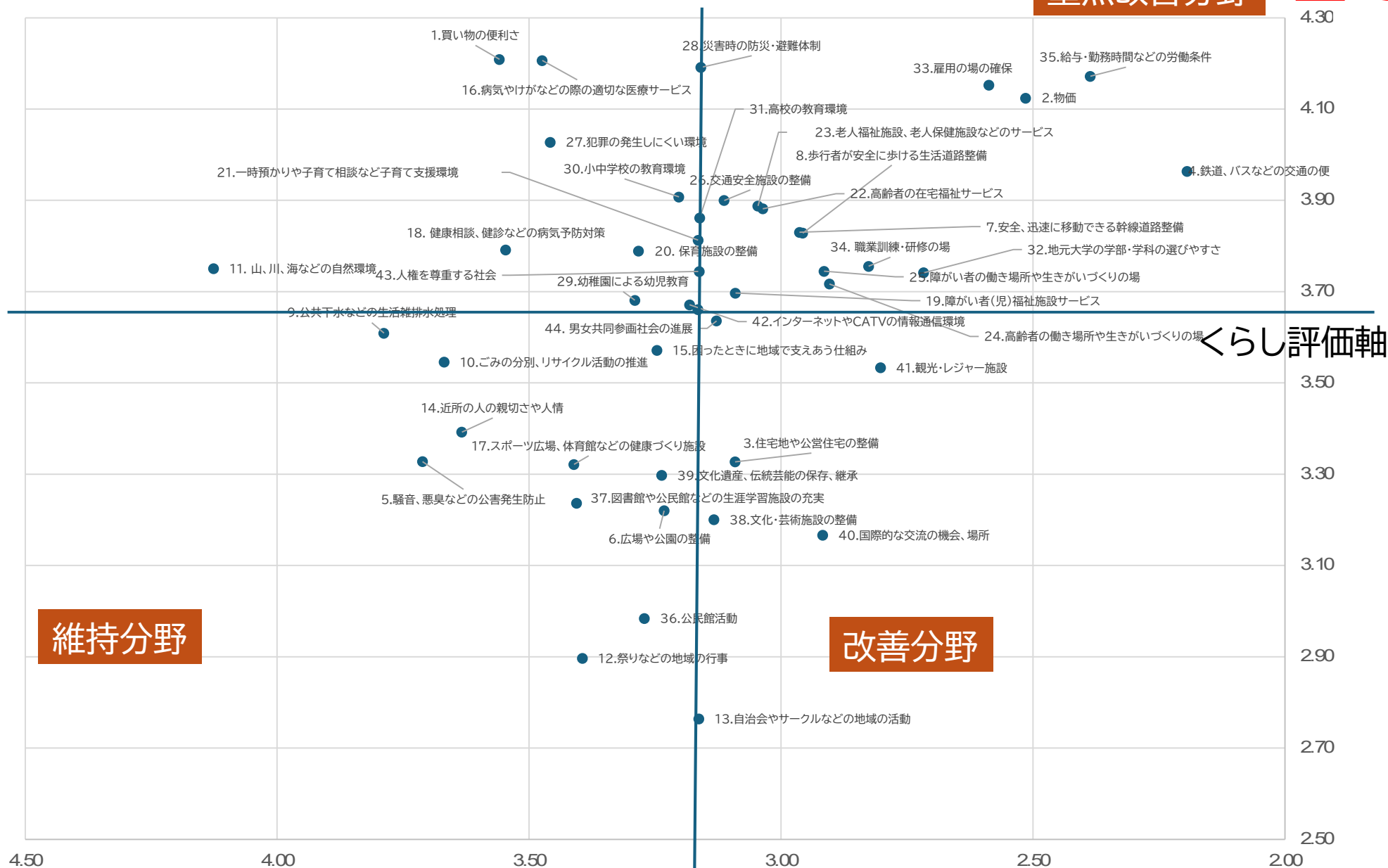


重点維持分野

未来への重要度軸

重点改善分野

23



学生アンケート調査報告書(速報・要点版)²⁴

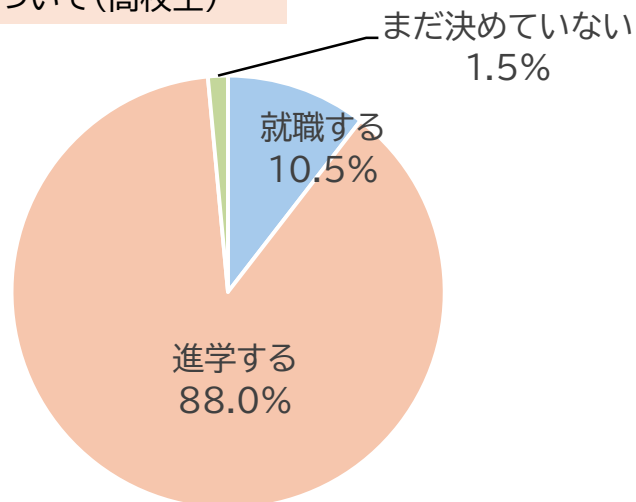
調査の概要

- ◆調査の目的:本アンケート調査は、学生の進路意向や定住意向等を把握するため、鳥取市に就学中の高校生、大学生を対象に実施した。
- ◆対象者:市内高校生、市内大学生
- ◆調査手法:WEBフォームからの回答
- ◆回答者:高校生401件、大学生222件
- ◆調査期間:令和6年7月

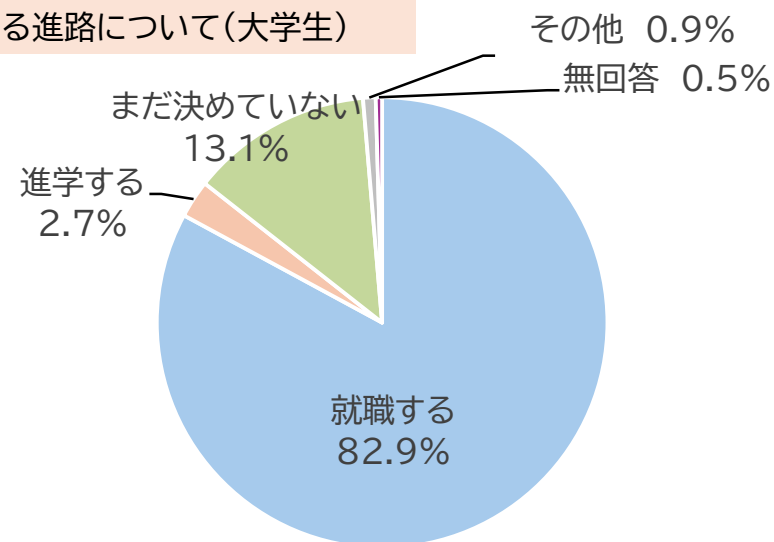
1.

進学、就職希望の傾向は前回調査と同様だが、高校生・大学生ともに県外志向が強まっている。

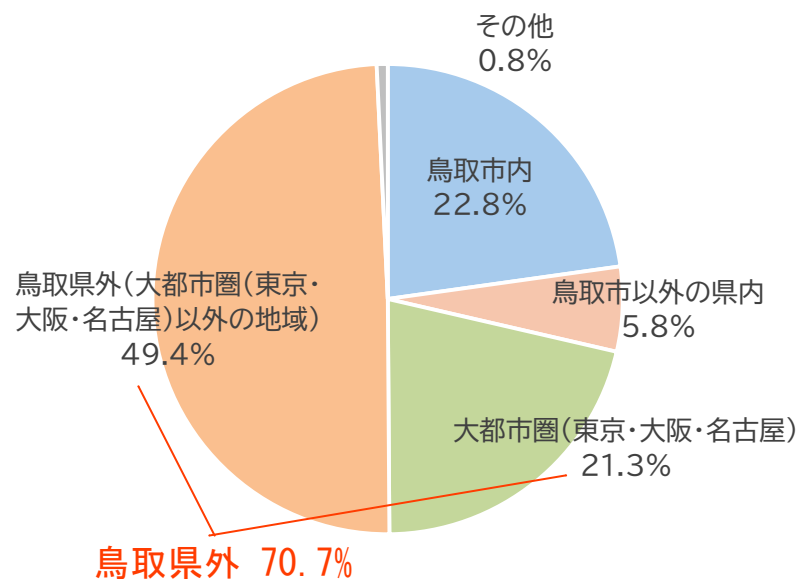
現在考えている進路について(高校生)



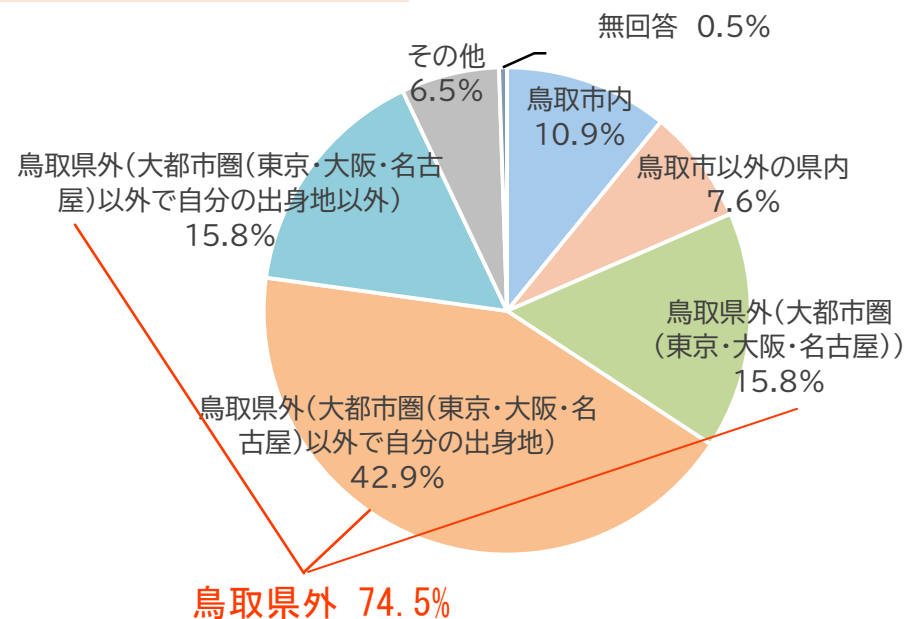
現在考えている進路について(大学生)



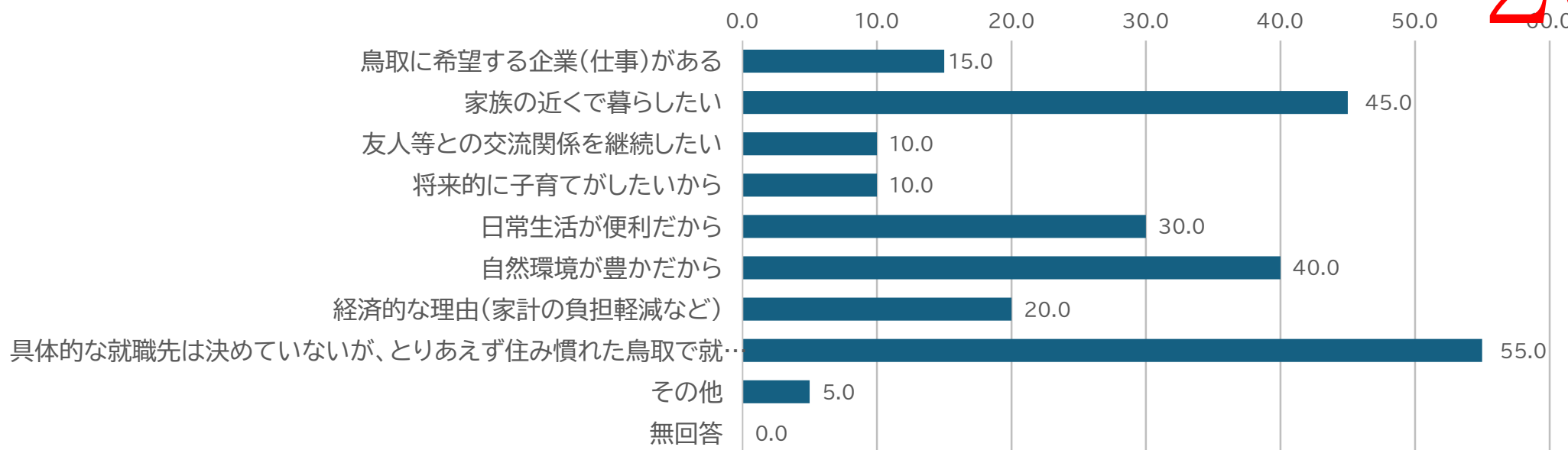
就職／進学場所について(高校生)



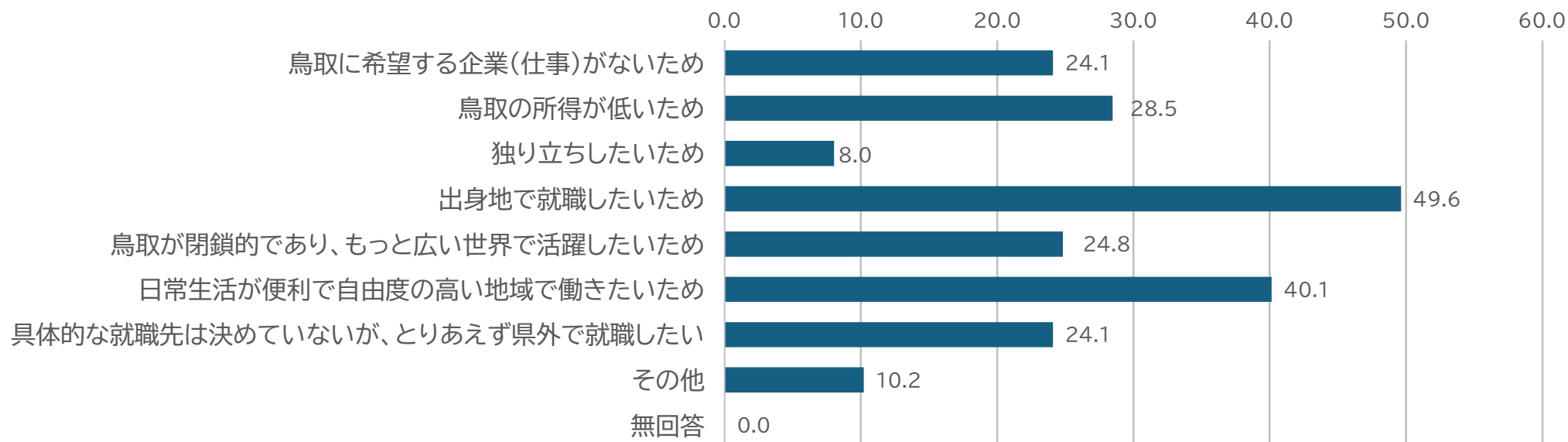
就職場所について(大学生)



市内へ就職したい理由(大学生)



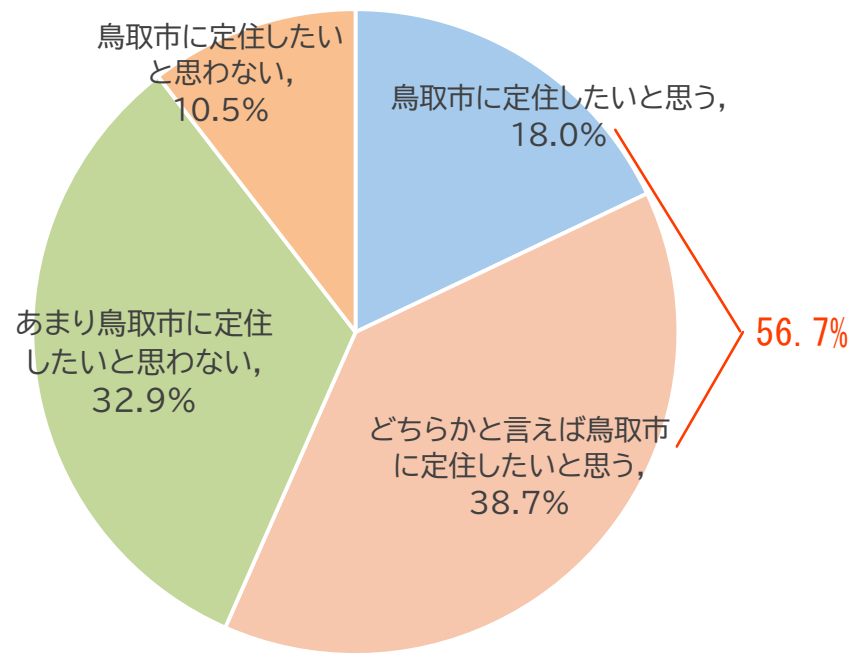
県外へ就職したい理由(大学生)



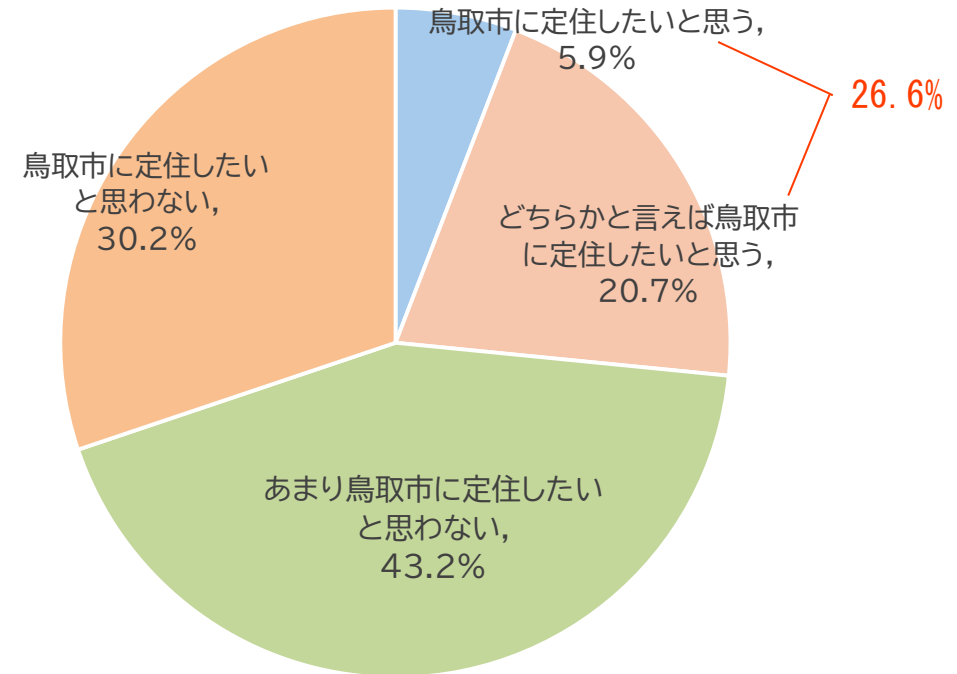
2

前回調査に比べ、高校生の定住意向割合は減少、
大学生は同程度の割合。

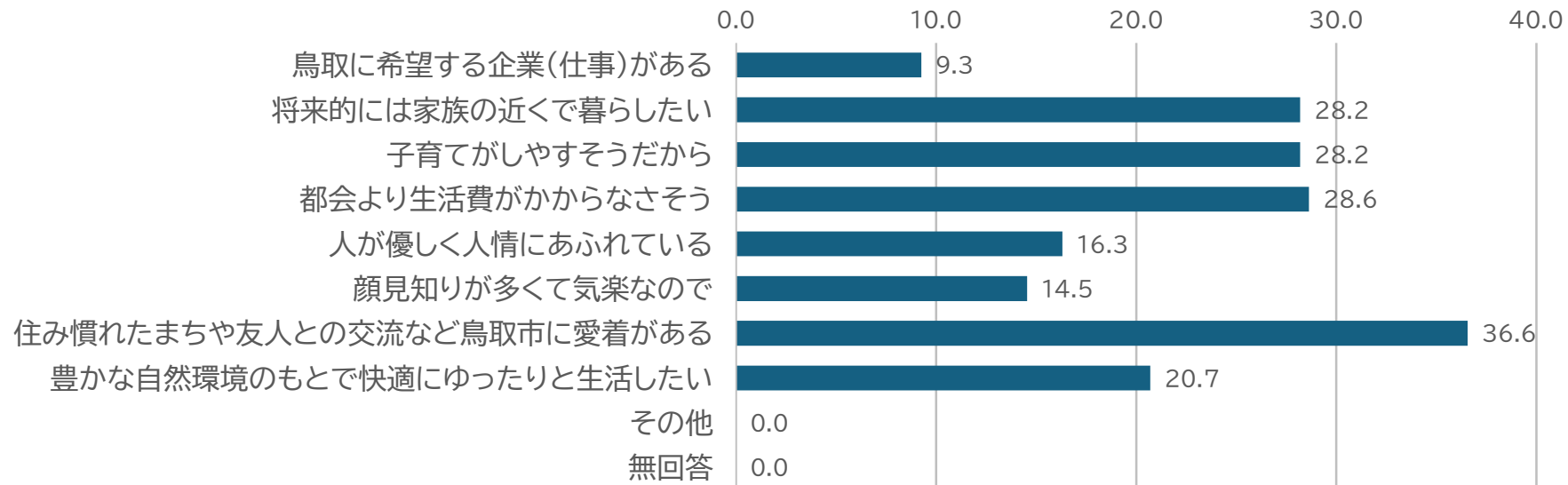
定住意向について(高校生)



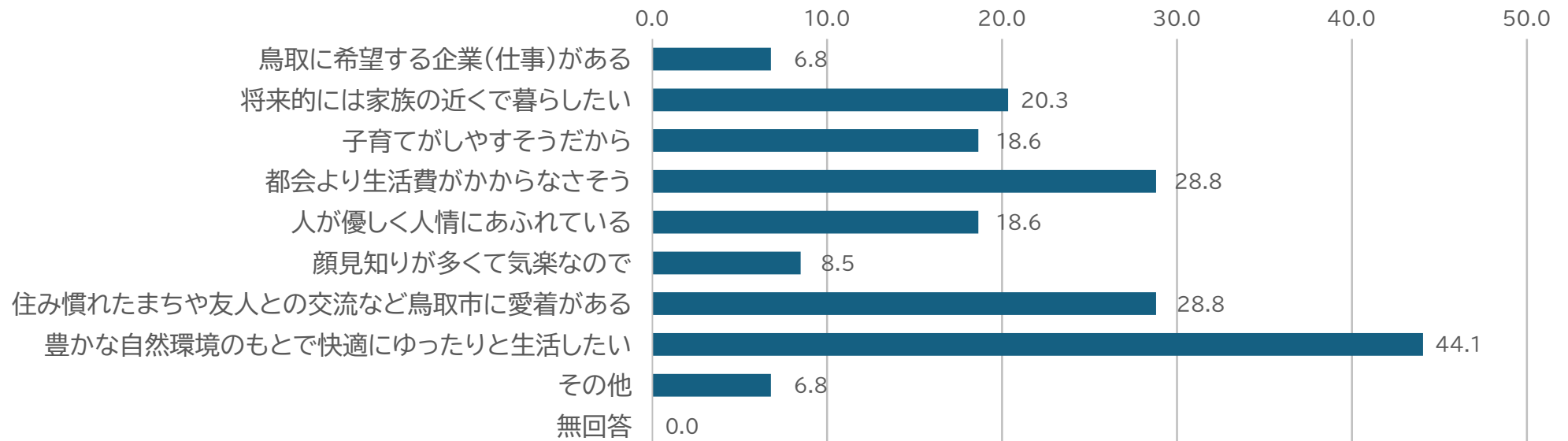
定住意向について(大学生)



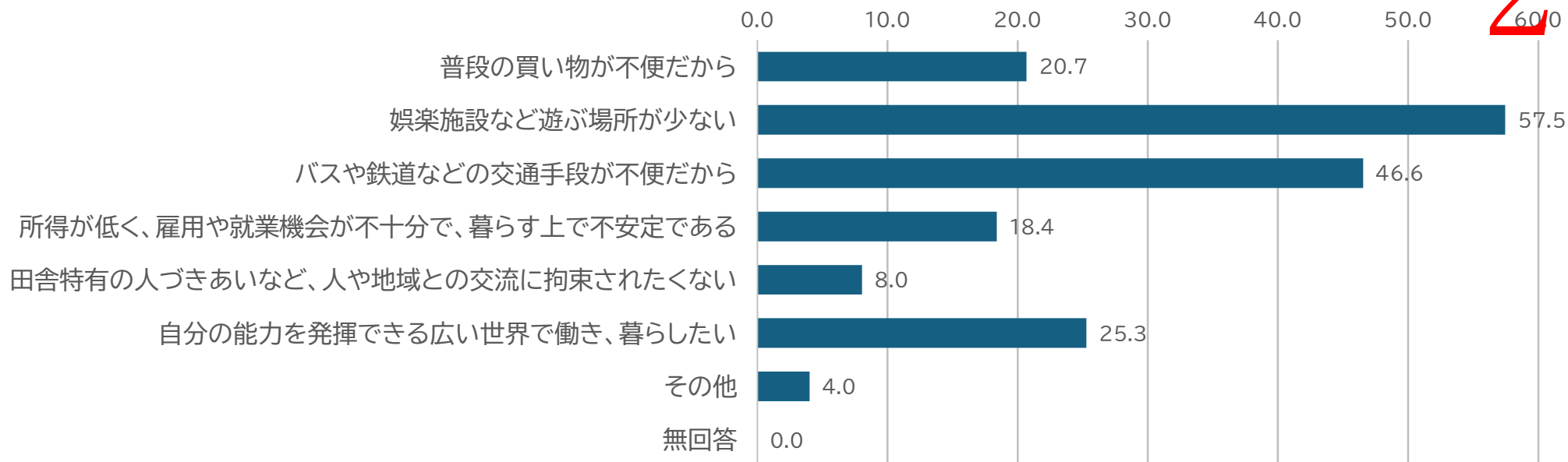
定住したい理由(高校生)



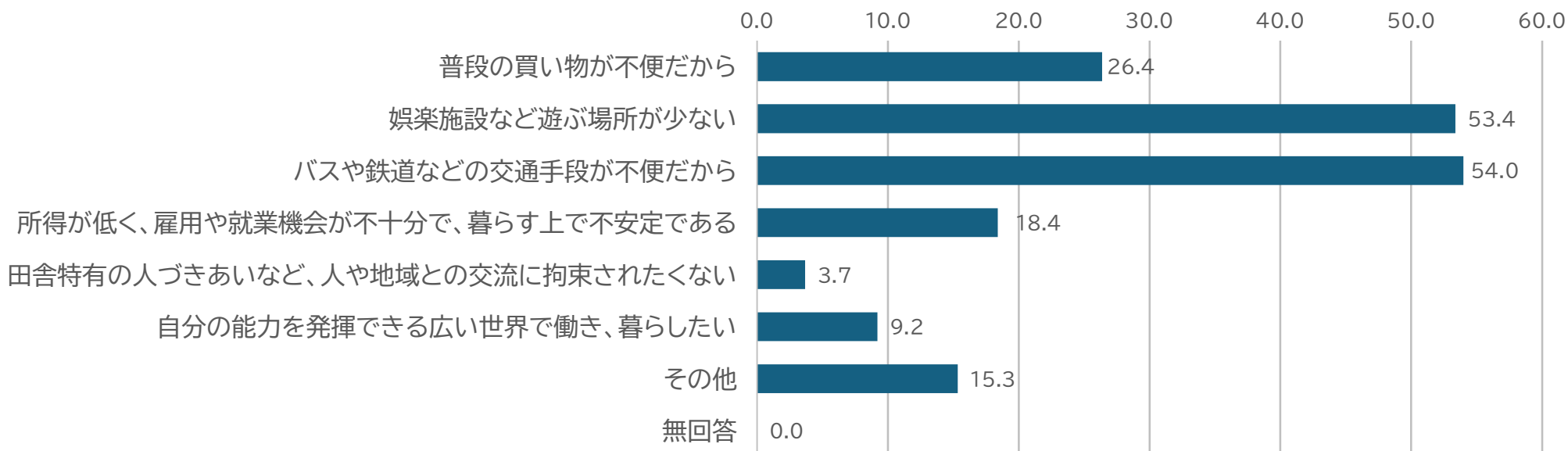
定住したい理由(大学生)



定住したくない理由(高校生)



定住したくない理由(大学生)

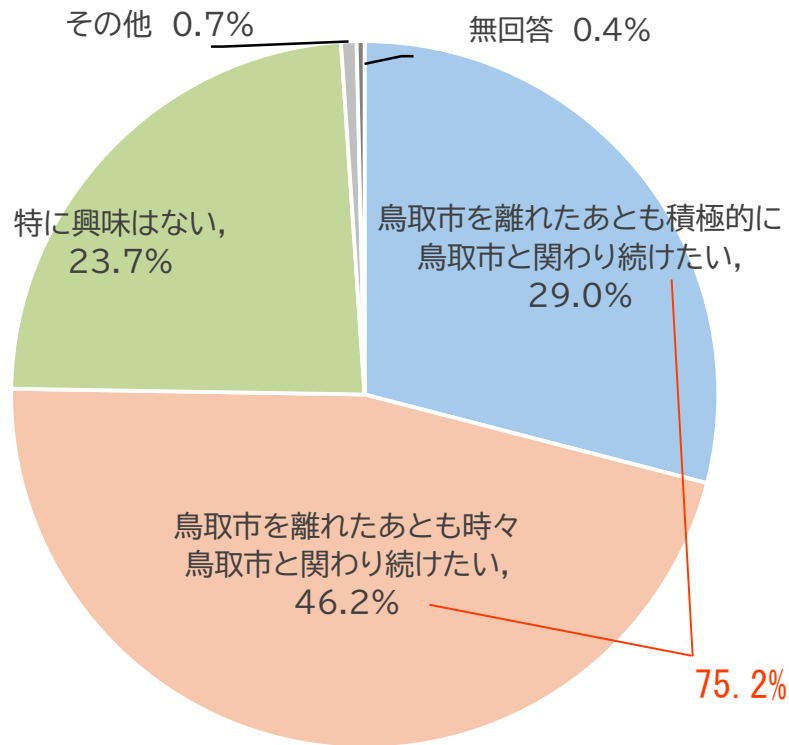


3

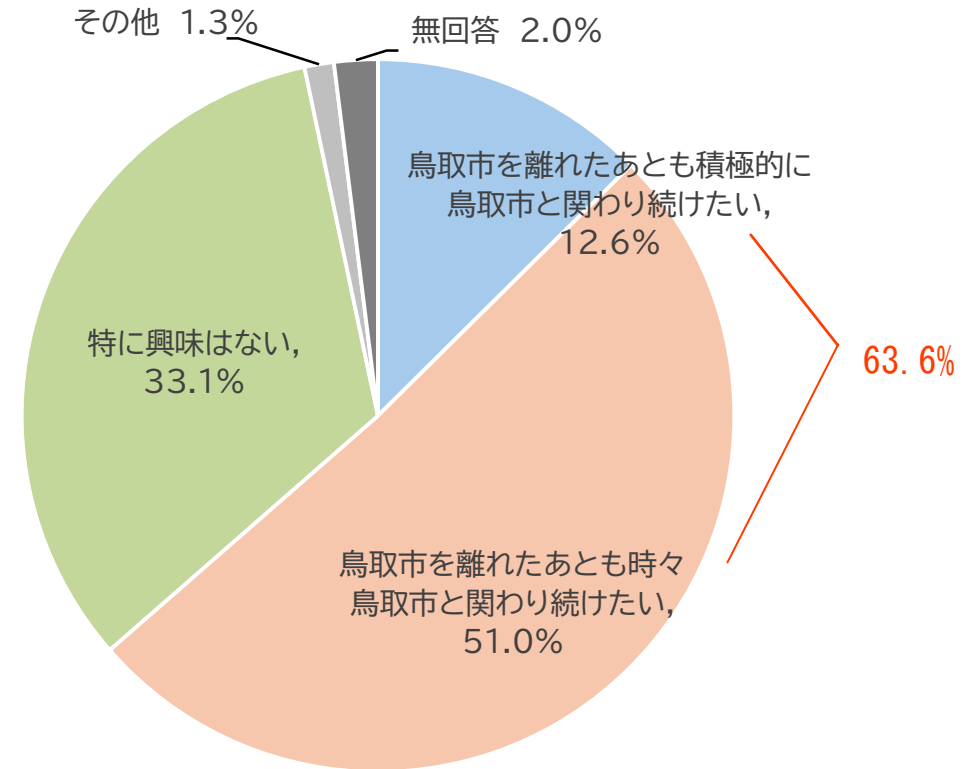
「定住を希望する」割合に対して、「鳥取市と関わりたい」割合は多く、特に大学生では顕著となっている。

30

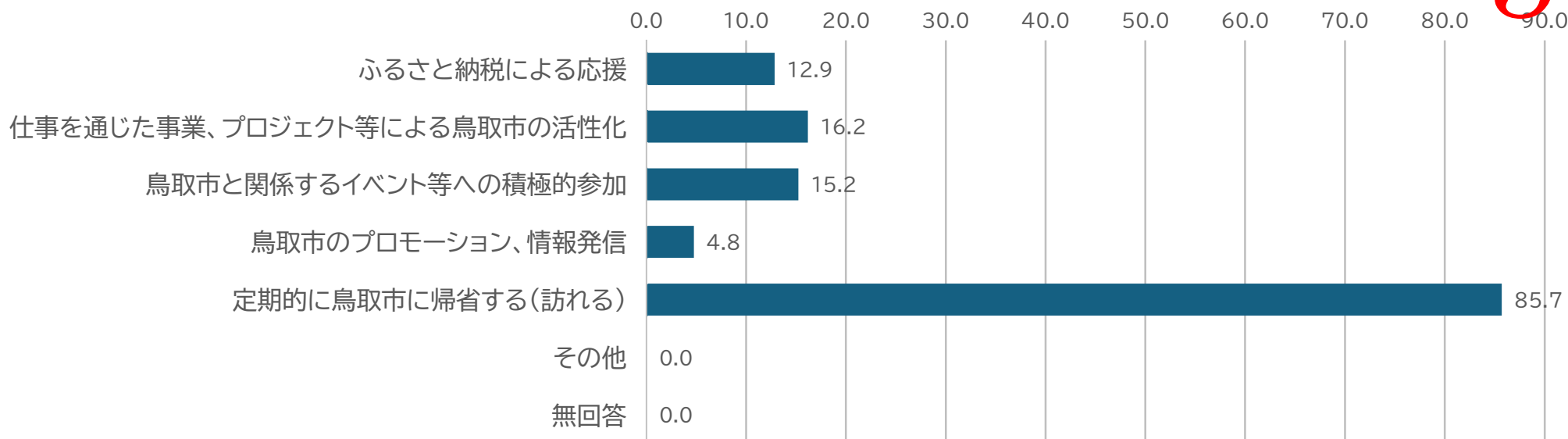
鳥取市を離れたあとの鳥取市との関わり方について(高校生)



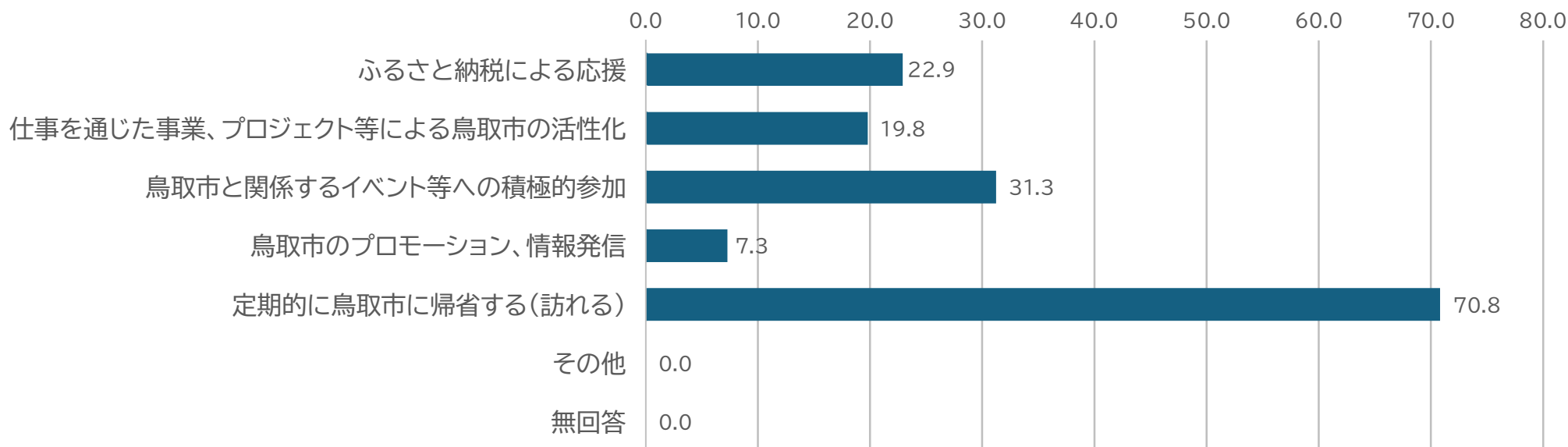
鳥取市を離れたあとの鳥取市との関わり方について(大学生)



鳥取市を離れたあと鳥取市と関わる方法について(高校生)



鳥取市を離れたあと鳥取市と関わる方法について(大学生)



第1回まちづくりワークショップ

テーマ:鳥取市の未来をみんなで考えよう

開催日:令和6年7月21日(日)

参加者:市民等40人

32

今後10年間の鳥取市のまちづくりの目標と方向性を示す次期総合計画の策定にあたり、鳥取市の将来に向けた市民の皆さんのご意見を、「10文字程度で」「1単語で」「鳥取弁で」など、短い言葉で表現し、共有しました。
また、鳥取市の将来に向けて、自分ができることを一人ひとりが考えました。



Q. 鳥取市はこれからどんなまちになる?

県外へでた人が戻って来たいと思えるまち
意見が反映されるまち
世界一の健康長寿市

挑戦を応援し合うまち
若者の希望が叶うまち
ストレスの少ないまち

ほか多数

Q. 鳥取市の将来像に向けて自分ができることは?

鳥取の好きなところを子どもに伝える
他人事ではなく、自分事に

知られていない良さを伝える
地域の活動に参加する

ほか多数

第2回まちづくりワークショップ

テーマ:移住者にとっても暮らしやすい「鳥取市の未来」

開催日:令和6年9月8日(日)

参加者:移住者等27人

今後10年間の鳥取市のまちづくりの目標と方向性を示す次期総合計画の策定にあたり、移住者にとって暮らしやすい鳥取市のまちの姿や、必要な取組について、ワールドカフェ形式で意見交換を行いました。

Q. 他の都市・地域と比べて鳥

取市のいいところは?

自然が豊か、四季を楽しめる
食べ物がおいしい
人と人がつながりやすい
地元民とのつながりの深さ
子育てしやすい環境

ほか多数

Q. 鳥取市に住んでみて

感じる課題は?

公共交通機関の整備
シャッター街、お店が少ない
学校が少ない(高校・大学)
情報が伝わりづらい
働く場所の選択肢が少ない

ほか多数

Q. 移住者がもっとイキイキと暮らせる鳥取市になるために必要な取組とは?

移住者向け移住後の市内ツアー
在住者と移住者の間を取り持つ人の存在
子育ての無償支援
地元の人と交流・情報共有する機会
使いやすい移住支援
鳥取酒場のチェーン店化、発信の場
多様性を受け入れる環境
レジャー、娯楽施設の整備

昔からいる人たちもイキイキと暮らせる町
市街地の商店街の活性化
車がなくても生活できるしくみ
空き家を借りやすく
気軽に集えるコミュニティ(相談・飲食)
文化に触れるチャンスを増やす
挑戦を応援し合うまち
仕事・住宅の提供

ほか多数

第1回地方創生ストリートミーティング

テーマ: 県外で活躍している学生のこえを聞こう

開催日: 令和6年8月22日 (木)
参加者: 鳥取市出身の県外学生7名

33

県外に居住している鳥取市出身の学生に“そと”から見た“鳥取市”の魅力や課題についてお聞きし、人口減少対策の中心課題である、若者定住、転出抑制やUターン促進につながる施策立案のための意見交換を行いました。

また、全国各地に居住している鳥取市出身の学生に参加してもらえよう、オンラインにより実施しました。

【テーマ1】鳥取市の魅力・イメージ

【自然・歴史・文化】

- ・ 多種多様な自然が豊かであり、アクセスが容易。
- ・ 歴史や文化を学ぶ環境が整っている。

【ひと】

- ・ 地域イベントの一体感
- ・ 地域の方が優しく温かい
- ・ 都市部と比べて空間的な余裕があり精神的な余裕が生まれる

【生活環境】

- ・ イベントが盛りだくさんでLINEで予定が通知される。
- ・ 遊びどころが少なく、特定の場所が満員になることがある。

【テーマ2】卒業後に鳥取市へ住みたい、関わりたいか

【卒業後は鳥取市に戻りたい】

- ・ 鳥取を離れて気付いた魅力がたくさんあり、鳥取に戻りたい。
- ・ 観光やまちづくり、地域課題の解決に携わりたい。
- ・ 県外の人からは鳥取に砂丘以外が認知されていないと感じる。自分が感じた魅力を伝えていきたい。

【いつかは鳥取市に戻りたい】

- ・ 企業の数や収入面で鳥取は都市部より選択肢が少ない。
- ・ 東京ではいろいろな人との出会いがあり、自分を成長させてくれる。
- ・ 週末は鳥取に立ち寄れる地域での生活や、人生の後半は鳥取で過ごしたいと考えている。
- ・ 両親の世話のために鳥取に帰ってくる必要がある。
- ・ 今の時代どこにいても自分のやりたいことができる。どこに住むかはまだ決めていない。



【テーマ3】若者が帰ってくる、住み続けられるまちにするための取組について

【まちづくり】

- ・ 公共交通利用増加のため、お店とも連携してキャンペーンを行うことも良い。
- ・ 交通インフラ向上により、鳥取に居住しながら県外に通勤できるようになると人口増加が見込める。
- ・ 住みやすさが幸福度に影響しているという研究があり、買物や交通インフラのほかスポーツイベントの充実も効果的ではないか。

【経済・雇用】

- ・ 今鳥取にいる学生を取り込まないといけない。鳥取大学から鳥取県で就職する人はそこまで多くないのではないか。
- ・ インターンシップは学生側から申し込まないといけないが、企業側からもっと積極的にいけるようにする仕組みがあれば良い。
- ・ 他地域との差別化による魅力発信、鳥取でも活躍できるというロールモデルの発信が重要。鳥取で起業された方をロールモデルとして宣伝することで、起業家が増えたり、若者に魅力を感じてもらえるのではないか。

【子育て・福祉】

- ・ 子育てをするうえで駅周辺に大きな広場があれば良い。駅の近くで長時間座れる場所がない。
- ・ 親子で参加できる子育ての集まり、同じ悩みを持つ方の集まりがあれば良い。

第2回地方創生ストリートミーティング

テーマ:県外で活躍している若者のこえを聞こう

開催日:令和6年8月28日(水)
参加者:鳥取市出身の県外社会人5名

34

県外に居住している鳥取市出身の若者に“そと”から見た“鳥取市”の魅力や課題についてお聞きし、人口減少対策の中心課題である、若者定住、転出抑制やUターン促進につながる施策立案のための意見交換を行いました。

また、全国各地に居住している鳥取市出身の若者に参加してもらえよう、オンラインにより実施しました。

【テーマ1】鳥取市の魅力・イメージ

【自然・観光・食】

- ・ 自然が豊かで食がおいしく、登山もしやすいなど都市部ではなかなかできない魅力
- ・ 砂丘アクティビティを県外の人でも知っており、興味を持っている人もいる。

【生活環境】

- ・ 鳥取は車がないと出かけられないのが不便。都市部では電車があり、歩いてすぐのところいろいろなものがある。

【ひと】

- ・ 都市部では、知り合いや仕事関係以外で知り合ったり話したりすることがないが、鳥取では人との繋がりが多い。
- ・ 鳥取は人と関わりたくない時などに一人になれる時間・場所がとりやすい

【テーマ2】今後、鳥取市へ住みたい、関わりたいか

【いつかは鳥取市で生活したい、きっかけがあれば生活したい】

- ・ 子どもは地元で育てたいという思いもあるが、仕事がネック。

【きっかけがあれば鳥取市で生活しても良い】

- ・ オンラインで場所を選ばずにできる仕事も増えている。自然豊かな環境でゆっくり仕事ができる環境があれば魅力的。
- ・ 学校選びや人と触れ合う機会が都会のほうが多く、価値観が広がり子どもの成長が期待できる点では都市部のほうが子育てに良い面もある。
- ・ 都市部では仕事と仕事の組合せの融通が利きやすい。

【生活したいとは思わないが、鳥取市とは関わっていききたい】

- ・ 子育てや結婚をしたときに、両親が近くにいるためサポートを受けられる。両親が体調を崩してもすぐに駆け付けられる。
- ・ 自分自身がやりたい仕事が鳥取市でできる確信がない。リモートワークも可能であるが、その生活を継続することは躊躇する。



【テーマ3】若者が帰ってくる、住み続けられるまちにするための取組について

【まちづくり】

- ・ 新幹線や高速道路などのアクセスの良さは魅力の一つ。
- ・ 高校生が鳥取を出たくないようなまちづくり、若い世代が魅力を感じるまちづくりが必要ではないか。
- ・ 鳥取は大学数、学部や学べることも限られる。もう少し幅が広がれば、地元大学に進学し、地元就職する流れが増えると思う。
- ・ 地元を出たいという気持ちは小さい時から積み重なったもので、わくわくが少ないというのは子どもにとって大きい。商業施設なども充実したら今の若い学生にとっては嬉しいのではないか。

【経済・雇用】

- ・ 仕事がしやすいまちづくりが大事。鳥取市は子育てしやすい環境も整っていると思うが、鳥取市でやりたい仕事がないと住めない。
- ・ メーカーの開発職や工場は地方にある場合もあるが、鳥取には希望する職種がなかったので選択肢から外れてしまった。

【子育て】

- ・ ここに力を入れている、他ではできないという大きなインパクトが大事。今の時代は情報が一番であり、良い取り組みをしても自分から調べないと知りようがないならば厳しい。

【その他】

- ・ 都市部が便利のため、都市部から地方に戻るのは大きな決断になる。そこを後押しするようなサポートや魅力があれば鳥取を選択する方も増えると思う。

第3回地方創生ストリートミーティング

テーマ: デジタル技術を活用し、鳥取市で充実した生活を送ろう

開催日: 令和6年9月19日 (木)

参加者: デジタル技術を活用し充実した生活を送る方6名

35

デジタル技術を活用し、様々なライフスタイルで充実した生活を送っている方々に、デジタル技術を活用して生活・仕事をしている視点から、鳥取で生活・仕事をする魅力、または不足している部分など、UIターン促進につながる施策立案に向けて意見交換を行いました。

ワーケーション施設として整備されたSANDBOX TOTTORIで開催しました。

【テーマ1】鳥取市に住む長所・利点

【自然・食・風土】

- ・ 鳥取は自然に触れ合える環境が近場に充実している。また、食環境も良い。
- ・ 手つかずの部分が残っているところが良い。

【生活環境】

- ・ 市の中心部から空港まで車で10～15分、鳥取から羽田まで飛行機で1時間と東京との時間的な距離は非常に近い。リモートワークをしつつ、東京のオフィスに行く必要があった場合に短時間で行くことができるのは大きなメリット。
- ・ 全国的にみて家賃が安く、都市部と比べて生活のランニングコストが安い。
- ・ 比較的災害が少ないことも移住を決めた理由の一つ。
- ・ 車が一台あればどこでもいくことができる。

【文化圏の面白さと「ゆるさ」】

- ・ 鳥取は、お金の匂いがしない。経済的に熱を持ちすぎず、みんな穏やかにのびのび暮らしている。
- ・ 集中して何かを創るときは人が少ない方が良い。鳥取には発想のヒントになるものがたくさんある。

【テーマ2】鳥取市の不満・不十分なこと

【生活環境】

- ・ 画一的な保育園だけでなく、民間から多様な保育園が出てきて欲しい。
- ・ 子どもの遊び場について、晴れている時は砂丘や森、公園などがあり問題ないが、雨の日はイオンやわらべ館など限られた遊び場しかない。雨天時に子どもが遊べる施設があると嬉しい。
- ・ 子どもの医療に関して、医療機関でもう少し患者に目を向けてほしいと思ったことが何度かあった。風邪をひいていたが門前払いされた経験があり、対応の仕方や言い方などが都市部と比較して気になる。



【テーマ3】選んでもらえる鳥取市になるためには

【まちづくり】

- ・ 自然が豊かで子育てが充実しているということは他の自治体でも発信している。鳥取独特の自然やレトロ感を残すのか、都市部のような利便性を求めて人口増加を目指すのか、どちらに舵をきるのかを決めることが必要。
- ・ どの世代に移住して欲しいといった戦略があるのか。全ての世代に向けたものだと中途半端になってしまうのではないかと。選択と集中が必要。

【生活環境】

- ・ 市の中心部から空港が近く、東京との時間的な距離が近いのは大きなメリット。さらに自治体等から飛行機代の支援などができれば移住の可能性も広がる。リモートワークをする若者にとって、空港が近く、必要があれば東京に出社できるのは大きなメリットとなる。
- ・ 鳥取か都市部かという今までのような二者択一だけでなく、週に何回かは自然が豊かなところで過ごし、あとは刺激的なところで過ごすという選択肢もあると思う。一歩進んだ鳥取ならではの組み合わせが出来れば魅力となる。
- ・ 移住の最低限のラインとして、都市部と同じとまでいなくても、医療・教育がある程度確保されていて選択肢があり、安心感・身の安全が確保されていることが必要。

【移住定住支援】

- ・ 移住定住支援窓口職員の親身な対応や、空き家バンクなどの住まいに関する情報提供など、丁寧な支援は移住者にとって心強い。
- ・ 移住した方が長期にわたり定住するように、例えば住宅ローンで家を購入してもらうような仕組みも必要。

②鳥取市人口等に関する基礎資料（要点版）

36

- 鳥取市では総合計画等策定にあたり人口ビジョンを策定（令和3年）し、人口減少克服と地方創生に向けた施策や事業の方向性などを検討するために人口等統計や将来人口推計、将来人口展望を活用しています。
- 2020年国勢調査結果をもとに、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が全国将来人口推計を令和5年4月に公表し、さらに地域別将来推計人口を令和5年12月に公表されました。また、人口推計に必要な仮定値を自治体独自に設定し、人口推計を行うことができるツールが令和6年6月に内閣府より自治体に対し提供されました。
- 上記ツールを活用し、第12次鳥取市総合計画策定に向け、現行の鳥取市人口ビジョンをもとに最新の社人研推計の値を用いてシミュレーションを行いました。
- なお、今後の人口ビジョン改訂の進め方については以下を予定しています。

10月

第3回総合企画委員会

人口ビジョン策定のための
基礎資料（要点版）

1月頃

第4回総合企画委員会

人口ビジョン策定のための
基礎資料

3月頃

第5回総合企画委員会

人口ビジョン（素案）

4月以降

人口ビジョン
（案）

(1) 将来推計の条件設定

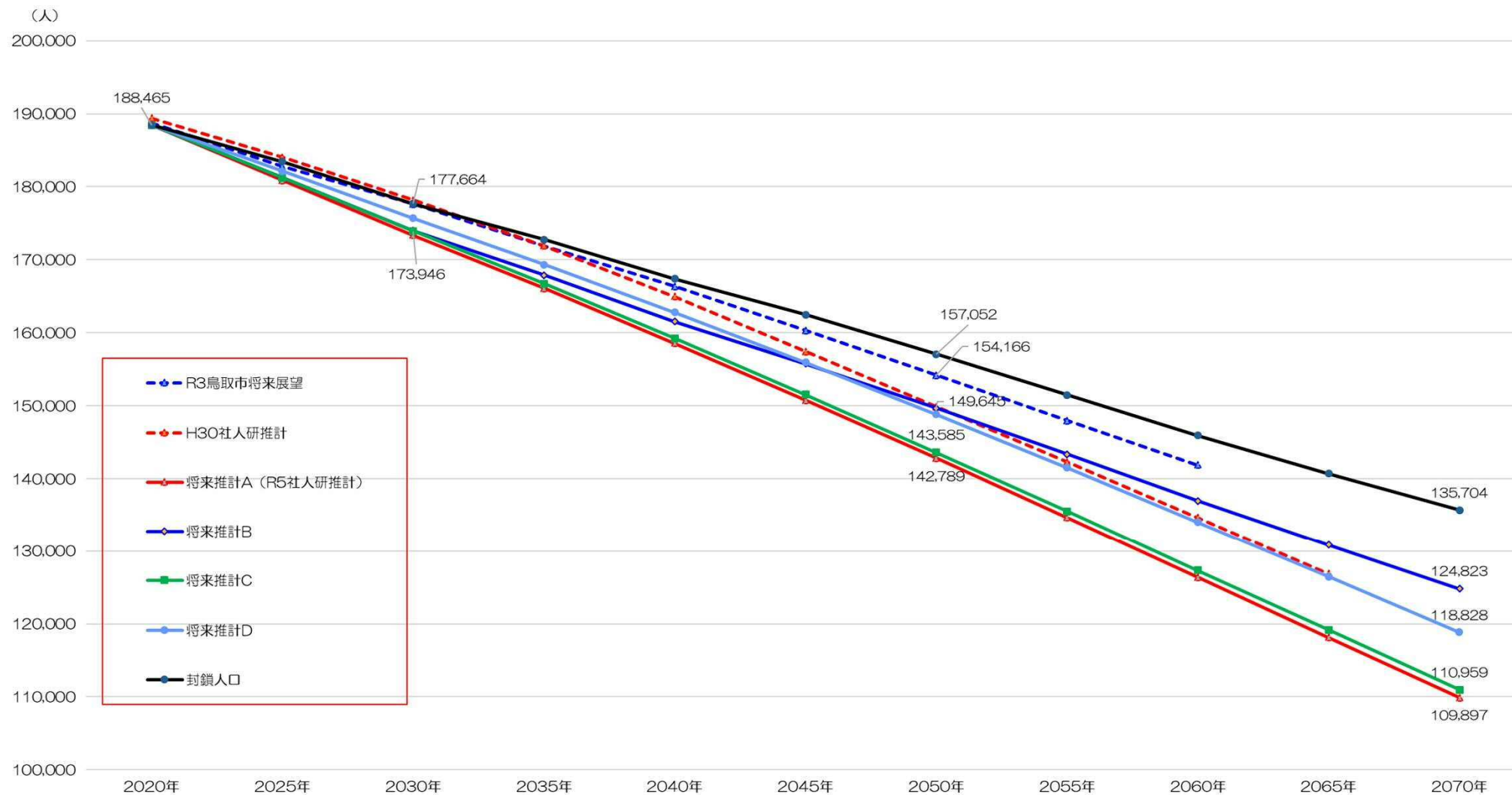
2020年までの国勢調査をベースに、コーホート要因法により以下の4通りで鳥取市人口の将来推計を行った。

名称	仮定値	推計結果項目	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
将来推計 A	出生	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（子ども女性比・性比）を設定	合計特殊出生率	-	1.40	1.44	1.48	1.49	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
			出生数（5年間）[千人]	-	5.9	5.7	5.5	5.4	5.1	4.6	4.0	3.6	3.3
			死亡数（5年間）[千人]	-	11.7	12.1	12.2	12.5	12.6	12.4	12.0	11.8	11.4
	死亡	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（生残率）を設定	自然増減（5年間）[千人]	-	-5.7	-6.4	-6.6	-7.1	-7.5	-7.8	-8.0	-8.1	-8.1
			社会増減（5年間）[千人]	-	-1.9	-1.1	-0.7	-0.4	-0.3	-0.2	-0.1	-0.1	-0.2
			総人口[千人]	188.5	180.9	173.4	166.1	158.6	150.7	142.8	134.6	126.4	118.2
	転出入（移動）	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（純移動率）を設定	年少人口割合（～14歳）	12.6	11.7	10.7	10.3	10.4	10.6	10.5	10.1	9.6	9.4
			生産年齢人口割合（15～64歳）	58.0	56.7	56.2	55.5	53.3	51.4	50.3	50.3	51.2	51.9
			老年人口割合（65歳～）	29.4	31.6	33.1	34.2	36.3	38.0	39.2	39.6	39.2	38.8
将来推計 B	出生	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（性比）を設定 5年前と出生率が改善していないことから国の長期ビジョンの目標値を5年遅延させ、2035年に1.8、2045年に人口置換水準である2.07まで上昇し、その後一定と設定	合計特殊出生率	-	1.50	1.50	1.80	1.80	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
			出生数（5年間）[千人]	-	6.4	5.9	6.7	6.5	7.2	6.4	5.9	5.6	5.7
			死亡数（5年間）[千人]	-	11.7	12.1	12.2	12.5	12.6	12.4	12.0	11.8	11.4
	死亡	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（生残率）を設定	自然増減（5年間）[千人]	-	-5.3	-6.2	-5.4	-6.0	-5.5	-5.9	-6.2	-6.2	-5.9
			社会増減（5年間）[千人]	-	-1.9	-1.1	-0.7	-0.4	-0.3	-0.2	-0.1	-0.2	-0.3
			総人口[千人]	188.5	181.3	174.0	167.9	161.5	155.8	149.6	143.4	137.0	130.9
	転出入（移動）	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（純移動率）を設定	年少人口割合（～14歳）	12.6	11.9	11.1	11.3	11.8	13.0	13.4	13.5	13.0	13.0
			生産年齢人口割合（15～64歳）	58.0	56.5	56.0	54.9	52.5	50.2	49.2	49.3	50.8	52.0
			老年人口割合（65歳～）	29.4	31.6	33.0	33.8	35.7	36.8	37.4	37.2	36.2	35.0
将来推計 C	出生	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（性比）を設定 2020-23年鳥取市合計特殊出生率平均1.495を設定	合計特殊出生率	-	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495
			出生数（5年間）[千人]	-	6.3	5.9	5.6	5.4	5.2	4.6	4.1	3.7	3.3
			死亡数（5年間）[千人]	-	11.7	12.1	12.2	12.5	12.6	12.4	12.0	11.8	11.4
	死亡	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（生残率）を設定	自然増減（5年間）[千人]	-	-5.3	-6.2	-6.6	-7.1	-7.5	-7.7	-7.9	-8.0	-8.0
			社会増減（5年間）[千人]	-	-1.9	-1.1	-0.7	-0.4	-0.3	-0.2	-0.2	-0.1	-0.2
			総人口[千人]	188.5	181.3	173.9	166.7	159.2	151.5	143.6	135.5	127.3	119.2
	転出入（移動）	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（純移動率）を設定	年少人口割合（～14歳）	12.6	11.9	11.0	10.6	10.5	10.6	10.5	10.2	9.7	9.5
			生産年齢人口割合（15～64歳）	58.0	56.5	56.0	55.3	53.3	51.5	50.5	50.4	51.4	52.1
			老年人口割合（65歳～）	29.4	31.6	33.0	34.1	36.2	37.8	39.0	39.4	38.9	38.4
将来推計 D	出生	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（性比）を設定 2020-23年鳥取市合計特殊出生率平均1.495を設定	合計特殊出生率	-	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495
			出生数（5年間）[千人]	-	6.4	6.1	5.8	5.6	5.4	4.9	4.3	4.0	3.6
			死亡数（5年間）[千人]	-	11.7	12.1	12.2	12.5	12.6	12.4	12.1	11.8	11.5
	死亡	社人研「地域別将来推計（2023）」の仮定値（生残率）を設定	自然増減（5年間）[千人]	-	-5.2	-6.0	-6.4	-6.8	-7.2	-7.5	-7.7	-7.8	-7.9
			社会増減（5年間）[千人]	-	-1.1	-0.4	0.0	0.3	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3
			総人口[千人]	188.5	182.1	175.7	169.3	162.8	155.9	148.8	141.5	134.0	126.5
	転出入（移動）	20-44歳の純移動数を人口比2%増加設定	年少人口割合（～14歳）	12.6	11.9	11.1	10.7	10.7	10.8	10.7	10.3	9.8	9.6
			生産年齢人口割合（15～64歳）	58.0	56.7	56.3	55.7	53.9	52.5	51.6	51.6	52.5	53.0
			老年人口割合（65歳～）	29.4	31.4	32.7	33.5	35.4	36.8	37.8	38.1	37.7	37.4

※合計特殊出生率は、全国の合計特殊出生率と子ども女性比との関係から得られる換算式により換算している。また、出生数は0～4歳人口を示している。また、0-4歳性比、生残率、純移動率は2055年以降は2050年以降と同値を仮定している。

(2) 総人口の将来推計

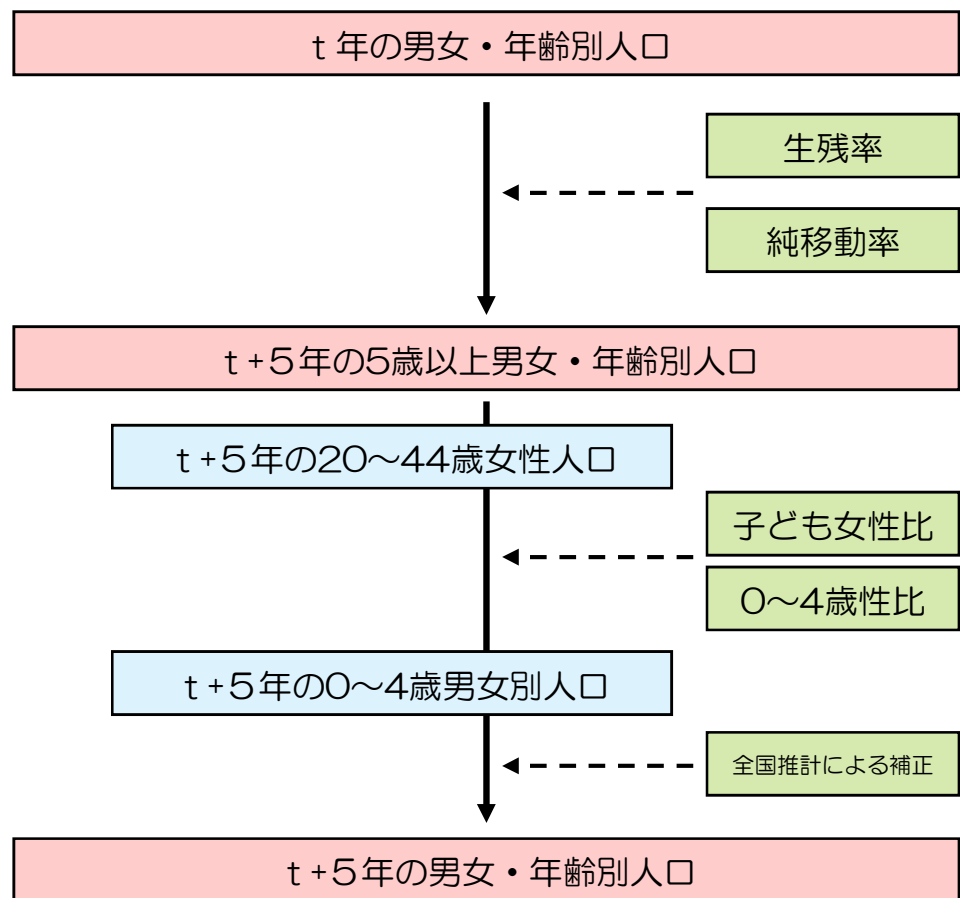
R5社人研推計はH30同推計と比較し、合計特殊出生率が大きく下方設定されたことを主な要因とし、人口が減少する見通し。R3鳥取市人口ビジョン及び同様の仮定値を用いた将来推計Bも同様に、人口が減少する見通し。また、社会増減が全くなかった場合を仮定する封鎖人口において、2045年で人口置換水準に回復したとしてもしばらくは人口が急激に減少し続ける見込みである。



※封鎖人口は社会増減が全くなかった場合のシミュレーション。ここにおいて、純移動率以外の条件は将来推計Bと同一。

(参考) 人口推計の手順

- 人口推計は、5年毎に行われる国勢調査による人口を基礎（基準人口）として、出生、死亡、転出入（出入国）等の人口動向から各月・各年の人口を算出するもの。
- 社人研による将来推計人口では、人口変動要因である出生、死亡、転出入（出入国）について、それぞれの要因に関する実績統計に基づいた人口統計学的な投影手法によって男女年齢別に仮定を設け、将来の人口を推計する。
- 将来人口推計の基本的な手法はコーホート要因法であり、年齢別人口の加齢に伴って生ずる年々の変化をその要因ごとに計算して将来の人口を求める方法である。



【生残率】

t年の年齢 $x \sim x+4$ 歳の人口が、5年後のt+5年に $x+5 \sim x+9$ 歳として生き残っている率。

【純移動率】

t年の年齢 $x \sim x+4$ 歳の人口に関するt→t+5年の5年間の純移動数（転入超過数）を、t年の年齢 $x \sim x+4$ 歳の人口で割った値。

【子ども女性比】

t年の0-4歳の人口を、同年の20-44歳女性人口で割った値。
合計特殊出生率とは異なるが、子ども女性比と合計特殊出生率は高い相関関係にあるため、値は近似する。
なお、平成30年社人研推計では、20-44歳女性人口ではなく15-49歳女性人口を計算に用いていた。

【0-4歳性比】

t年における0-4歳女性人口100人あたりの0-4歳男性人口。

第12次鳥取市総合計画等の策定について

(2) 策定にあたっての視点

市民みんなで取り組む計画として、

特に中学生や高校生など未来の鳥取市を担っていく若い世代に

これからの鳥取市がどうなるだろうか

自分たちには何ができるだろうか など

自分ごととして考えてもらえるような基本構想を作成したいと考えています

●鳥取市の「明るい未来」をみんなで描き、みんなで行動する

これまでに挙げた課題等を解決するため、鳥取市がめざす将来像を多種多様な分野の市民等の意見を聴取し反映させるとともに、行政のみならず市民や事業者等が果たすべき役割について明記することで、オール鳥取市で取り組んでいくこととします。あわせて、市民が自分ごととして鳥取市の将来を考えたり、行動するきっかけとなるものとして、市民が手に取り、読みたくなるような基本構想とします。

(ア) 市民みんなで取り組む計画

各施策において、市民や事業者等が担う役割を明記し、行政・市民・事業者の連携により取組を加速させます。また市民が主役の協働のまちづくりを推進するための生きたツールとして計画を活用します。

(イ) 市民にわかりやすい計画

市民が手に取り、読みたくなるような、わかりやすい計画となるような計画構成とするほか、表現を簡潔明瞭にし、計画と戦略に重複する内容の整理を行うなど、視覚的にも見やすい計画とします。

(ウ) 市民等の意見を反映した計画

鳥取市が目指す将来像等について、幅広く市民にアンケートを実施するほか、学生等若者や様々な分野に従事する市民、事業者等から直接意見を言うていただく機会を設けることで、様々な意見を反映させます。

(エ) 柔軟性のある計画

考え方や価値観が多様化し、またAIなどデジタル技術の浸透により未来予測が困難な時代において、社会環境の変化に対応できる柔軟性を持った計画とします。

③鳥取市の分野別現状及び課題について

現在、第12次鳥取市総合計画の策定に向けて、鳥取市を取り巻く現状や課題、将来起こり得る問題点等の分析を進めています。整理中の分析内容に、総合企画委員会委員の皆さまや市民等参加事業でいただいたご意見等を掲載し、分野別の現状・課題整理表に取りまとめました。 ※掲載している統計数値等は第11次鳥取市総合計画の数値目標等に対する直近の実績値です。

- (1)結婚・出産・子育て支援
- (2)教育の充実・郷土愛の醸成
- (3)生涯学習の推進
- (4)安心できる社会保障制度の運営
- (5)超高齢社会に向けたまちづくりの推進
- (6)障がいのある人の自立支援
- (7)健康づくり・疾病予防・介護予防の推進
- (8)安全・安心のための保健衛生と医療の推進
- (9)スポーツ・レクリエーションの振興
- (10)人権擁護の推進と人権意識の醸成
- (11)男女共同参画社会の形成
- (12)地域福祉の推進
- (13)多文化共生のまちづくりの推進
- (14)協働のまちづくりの推進
- (15)持続可能な経済成長の実現
- (16)工業の振興
- (17)商業とサービス業等の振興
- (18)農林水産業の成長産業化
- (19)ふるさと・いなか回帰の促進
- (20)滞在型観光の推進
- (21)シティセールスの推進
- (22)自治体間連携の推進
- (23)他都市との交流の推進
- (24)文化芸術によるまちづくりの推進
- (25)文化財の保存・整備による「まちづくり」資産の形成
- (26)生活基盤の充実
- (27)中心市街地の活性化
- (28)魅力ある中山間地域の振興
- (29)交通ネットワークの充実
- (30)地域情報化の推進
- (31)地域防災力の向上
- (32)防犯・交通安全対策の充実
- (33)安全・安心な消費生活の確保
- (34)循環型社会の形成
- (35)環境保全活動の推進



- ①子育て・教育
- ②福祉
- ③医療・健康
- ④人権・共生
- ⑤産業（商工業）
- ⑥産業（農林水産業）
- ⑦産業（観光）
- ⑧文化芸術・文化財
- ⑨都市基盤
- ⑩防災・防犯
- ⑪環境
- ⑫その他（交流、情報発信、デジタル）

（補足）

上記の区分は、第11次総合計画の単位施策を12の区分に暫定的に集約したものであり、今後精査のうえ、次回会議以降に骨子（たたき台）として提示していく予定です。

鳥取市の分野別現状/課題 ①子育て・教育

現状と主な課題・問題点

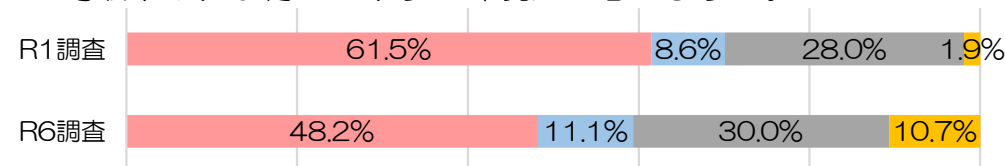
- ・合計特殊出生率の低下 (H30) 1.5→(R5) 1.4
- ・出生数の減少 (H30) 1,442人→(R5) 1,148人
- ・婚姻件数の減少 (H30) 790件→(R4) 715件
- ・小中学校の児童、生徒数 (H30) 14,662人→(R6) 13,438人

【子育て】

- ・晩婚化、晩産化、経済的不安や出会いの機会の減少、子育ての負担感や育児、教育に係る費用負担などの要因が複雑に絡み合い、結婚、妊娠、出産、子育てへの希望を阻害
- ・保育士確保と保育士処遇改善
- ・保護者の就労形態の多様化、保育者等のニーズの多様化

【市民アンケート調査】

鳥取市は、子育てしやすい環境だと思いますか。



- 子育てしやすい (子育てしやすかった)
- 子育てしにくい (子育てしにくかった)
- どちらともいえない・わからない
- 無回答

【教育】

- ・教育施設の老朽化の進行
- ・学校の適正規模の確保・配置の検討
- ・不登校、要配慮、要支援児童生徒の増加など、教育的ニーズの多様化
- ・放課後児童クラブの入級児童数増加に伴う開設場所の確保
- ・ICT活用における教職員の指導力の着実な向上

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

【子育て】

- ・結婚や出産適齢期の人口が少ない
- ・働く女性が安心して出産・子育てするためには周囲の理解を高める必要がある
- ・婚活支援において、若者が参加しやすいコミュニティを増やす必要あり

【教育】

- ・鳥取県の教員採用者に県外出身者が多く定着率の低さが課題
- ・鳥取市に対する郷土愛あふれる人材の採用が必要
- ・少子化や学校統廃合など教育環境の変化
- ・郷土教育の不足
- ・学校の選択肢が少ない、習い事が限られる
- ・都市部の方が人と触れ合う機会が多く、子どもの価値観の広がりや成長が期待できる

鳥取市の強み/特性/魅力

- ・出産への経済的支援が充実、子育てサポートが多い
- ・子どもの医療に関する支援が手厚い、子どもを保育園に入れやすい
- ・人口に対して保育施設、病院等の数が充実。待機児童数が少ない

- ・地域の方が優しく、都市部に比べると子育て等でも頼ることができる。
- ・都市部と比較して空間が「広い」など子育てしやすい環境

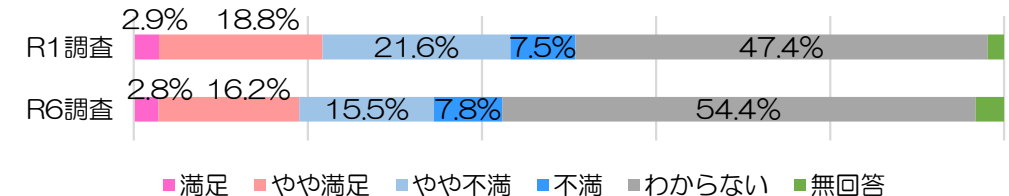
現状と主な課題・問題点

- ・高齢化率 (H27)26.6%→(R2)29.5%
- ・生活保護受給者数 (H30)3,057人→(R5)2,735人
- ・介護給付費 (H30)170億円→(R5)181億円
- ・要介護認定者数 (H30)10,833人→(R5)10,947人
- ・手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉保健手帳)所持者 (H30)10,937人→(R6)11,212人

- ・超高齢社会が到来し、一人暮らし高齢者の増加など家族形態を取り巻く環境の変化に伴い、地域におけるコミュニティ意識の希薄化、地域活動の担い手不足など、地域で支え合う力が徐々に弱まりつつある。
- ・サービスの受け手と支え手という関係を超えて、誰もが住み慣れた地域で自分の能力を発揮しながら自分らしく暮らせる「地域共生社会の実現」が求められている。

【市民アンケート調査】

高齢者の働き場所や生きがいづくりの場について



- ・生活課題の潜在化・深刻化(困り感がない、助けてとれない等)
- ・制度の狭間(ゴミ屋敷、ひきこもり等)
- ・生活保護世帯における単身高齢者の増加
- ・国民健康保険における被保険者の減少及び一人当たり医療費の増加

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- ・独居老人、夫婦での生活世帯が多く見受けられる
- ・車社会の鳥取において、山間部や中心地から離れたところは孤立
- ・インターネットが使えないと生活が成り立たなくなることが想像される
- ・医療、介護人材確保が困難になり必要なサービスが提供できない懸念
- ・孤独死などが社会問題になっているが、市としてどこまで支援できるか不安
- ・公共交通機関が不足しており、車が運転できなければ買い物もままならない

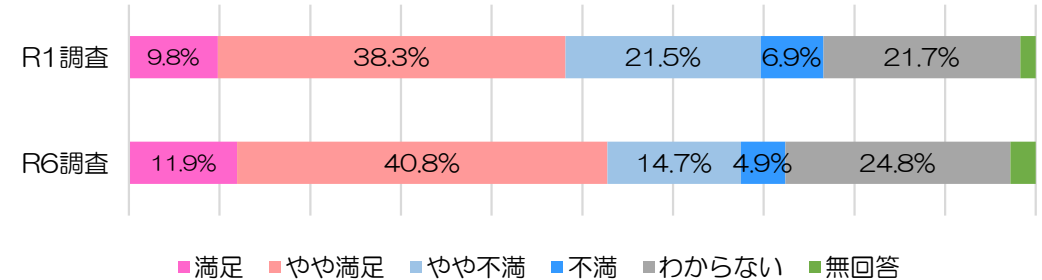
鳥取市の強み/特性/魅力

- ・在宅医療介護連携協議会が機能しており、関係者の顔の見える関係が構築され、諸課題を共有しながら連携を図っている
- ・シルバー人材センター運営補助等の支援が手厚く、高齢者の生活確保や生きがいづくりに寄与している
- ・高齢者向けのデイサービスやグループホーム、障がい者支援センター、生活支援サービスなど、多様な福祉サービスが提供されて、住民が必要なサポートを受けやすくなっている
- ・地域内には多くのボランティア団体や福祉団体が活動しており、地域住民のサポートや地域イベントの運営に積極的に関わっていることで、コミュニティの結束が強化されている
- ・地域包括支援センターが設置され、高齢者や障がい者の生活全般にわたる支援が行われており、地域内での支援が連携され、住民の生活の質が向上している

現状と主な課題・問題点

- 健康寿命（女性） (R1)20.76年→(R5)21.33年
- 健康寿命（男性） (R1)17.55年→(R5)18.10年
- 病院病床数 (H30)3,191床→(R3)3,140床
- 保護収容動物の返還及び譲渡率 (R1)57.8%→(R5)50.7%
- 学校体育館等の延べスポーツ利用者数 (R1)344,804人→(R5)667,472人

【市民アンケート調査】 スポーツ広場、体育館などの健康づくり施設について



- 診療所医師の高齢による離職、後継者不在による閉院が進んでおり、特に中山間地域の病院勤務医の安定的な確保や、病院ごとの常勤診療科医の確保が必要
- 災害時に配慮を有する者に対応できる体制強化と、それを支える災害医療に係る人材の育成、関係者の連携強化
- 新興・再興感染症への対応も含め、健康危機全般が発生した場合にも対応できる健康危機管理体制の構築

- 人口減少と高齢化が進行していく中、健康寿命の延伸と健康格差の縮小の実現に向け、健康づくり（生活習慣病予防・重症化予防・フレイル対策含む）をより一層推進する取組が必要
- 食品に係る事故・違反の防止
- 動物を原因とする近隣トラブルや動物遺棄等の発生
- 動物愛護の拠点となる施設等の今後のあり方の検討も必要

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- 疾病は自身が直面しないと関心を持たないことが多く、健診で終わり重症化予防に繋がっていない者が多い。

鳥取市の強み/特性/魅力

- 中核市として保健所を有し、県の東部圏域を管轄しておりリーダーシップをとることができる
- 人が少ないので手厚い対応がしてもらえる。人口に対して病院や介護施設が充実していると感じる。
- スポーツ施設の質、量とも同規模の都市と比較しても遜色ない
- 各競技の大会や協議会の開催が盛ん

現状と主な課題・問題点

- ・「人権を尊重する社会について」満足/やや満足の割合
(R1)39.5%→(R6)36.2%
- ・「男女共同参画社会の進展について」満足/やや満足の割合
(R1)32.2%→(R6)33.6%
- ・福祉ボランティア活動に参加した市民の割合
(R1)7.2%→(R6)4.1%
- ・在留外国人の推移 (R1)1,545人→(R5)1,762人
- ・自治会加入率 (R1)64.9%→(R5)61.5%
- ・地域活動に参加したことがある市民の割合
(R1)71.5%→(R6)64.2%
- ・近所づきあいがあると回答した市民の割合
(R1)76.6%→(R6)67.6%

- ・多様な価値観、複雑化する人権課題への対応
- ・職域や子ども（学校における）の人権教育・啓発の重要性が増大
- ・単身世帯が増加し、家族機能が失われていく地域社会
- ・社会的孤立状態にあり、支援が届きにくい者・世帯の増加
- ・若い世代や女性が将来に夢を持てる誰もが活躍できる社会

【市民アンケート調査】

地域の活動への参加を妨げる原因はどのようなことだと思いますか。
(回答方法が異なるため上位項目を列挙)

R6調査

- ①仕事が忙しくて参加する時間がない
- ②人間関係がわずらわしい
- ③余暇の時間を割いてまで参加しようと思わない
- ④興味・関心がない
- ⑤家事・育児・介護などで時間がない
- ⑥自分が参加するメリットや必然性を感じない

R1調査

- ①仕事が忙しくて参加する時間がない
- ②人間関係がわずらわしい
- ③興味・関心がない
- ④家事・育児・介護などで時間がない
- ⑤自分が参加するメリットや必然性を感じない
- ⑥余暇の時間を割いてまで参加しようと思わない

- ・多様で柔軟な働き方、ワークライフバランス（WLB）の浸透
- ・町内会など地域活動を支える役員の高齢化や担い手不足
- ・外国人労働者の増加が見込まれるなか、多様化する社会の中で誰もが住みやすい多文化共生のまちづくりが一層求められている。

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- ・地域活動で、民生委員、社会福祉協議会、自治会等が子どもに多く目を向けており、高齢者への関わりが薄くなっていると感じる
- ・外国人は地域に馴染みにくく、孤立しやすいという視点が必要
- ・外国人への対応は非常に幅広く、多文化共生という言葉だけでなく、人権、地域社会、生涯教育、経済や産業問題など幅広い視点が必要
- ・地区公民館の生涯学習や社会教育の成果が地域の課題解決へと結びついていない
- ・コロナ禍を経過するなかで協働意識の低下や地域住民の結びつきが薄れている
- ・悪気なくプライバシーを探られる

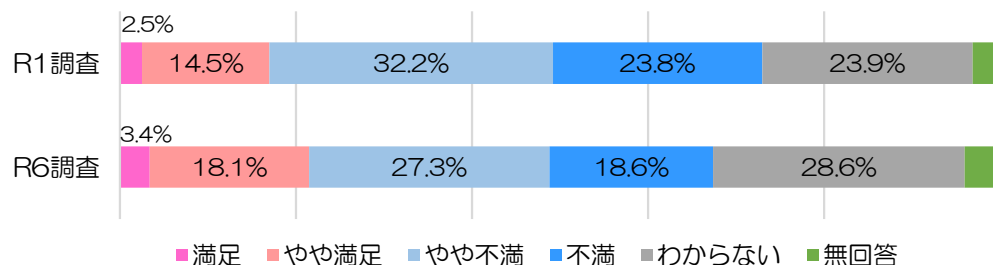
鳥取市の強み/特性/魅力

- ・公民館での活動が活発で多くの人が教室で活動している（地域差あり）
- ・家庭内/職場で男女共同参画が進みつつある
- ・都会と比べて人と人の繋がりが強い

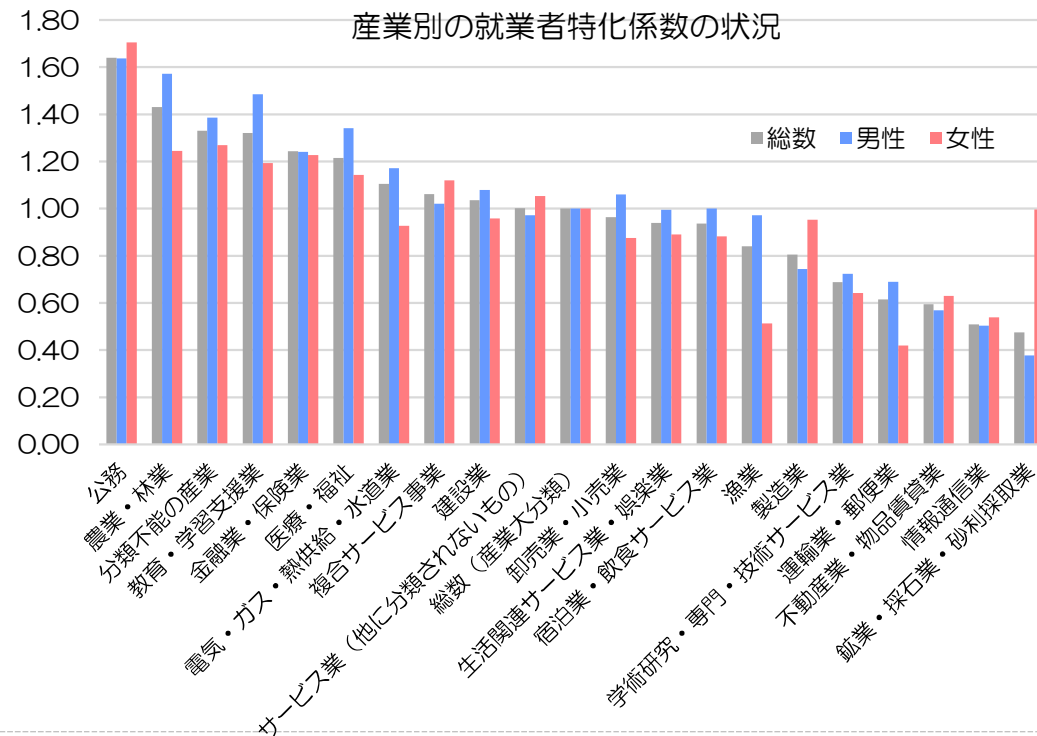
現状と主な課題・問題点

- 就業者1人あたりの市内GDP (H29)6,804千円→(R3)6,755千円
- 大学生県内就職率 (R1)23.4%→(R5)22.0%
- 市内製造品出荷額等 (H30)2,811億円→(R3)2,971億円
- 市内事業所数 (H28)9,996件→(R3)8,537件

【市民アンケート調査】 雇用の場の確保について



- 生産年齢人口の減少による労働力の減少
- 減少する労働力を代替するIT、AI技術の活用による生産性の向上
- 商店街、まちなかの衰退



- 伝統工芸の継承者不足
- 持続可能な事業環境の構築に向けた脱炭素化の推進
- エネルギーの地産地消による地域経済循環の拡大

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- 人口減少、賃上げ要請の中、中小企業の人材確保リスク上昇
- 資材高騰や円安による仕入コスト上昇、人件費増加により企業負担増
- 後継者問題
- 本国の社会水準上昇や円安基調から外国人労働者の日本への魅力希薄化
- 資源の効率的な利用や再生可能エネルギーの導入

- 鳥取市としての持続可能なビジネスモデルの育成
- 商業、サービス業（特にエッセンシャルワーカー）の所得安定、人材確保
- 都市部に比べ就職先/業種の選択肢が少ない。専門的な仕事が少ない。
- チャレンジしても良いと思える環境が必要。鳥取の特色を作してほしい。
- 大学進学前の高校生に広く地元企業を知ってもらう機会を増やす必要

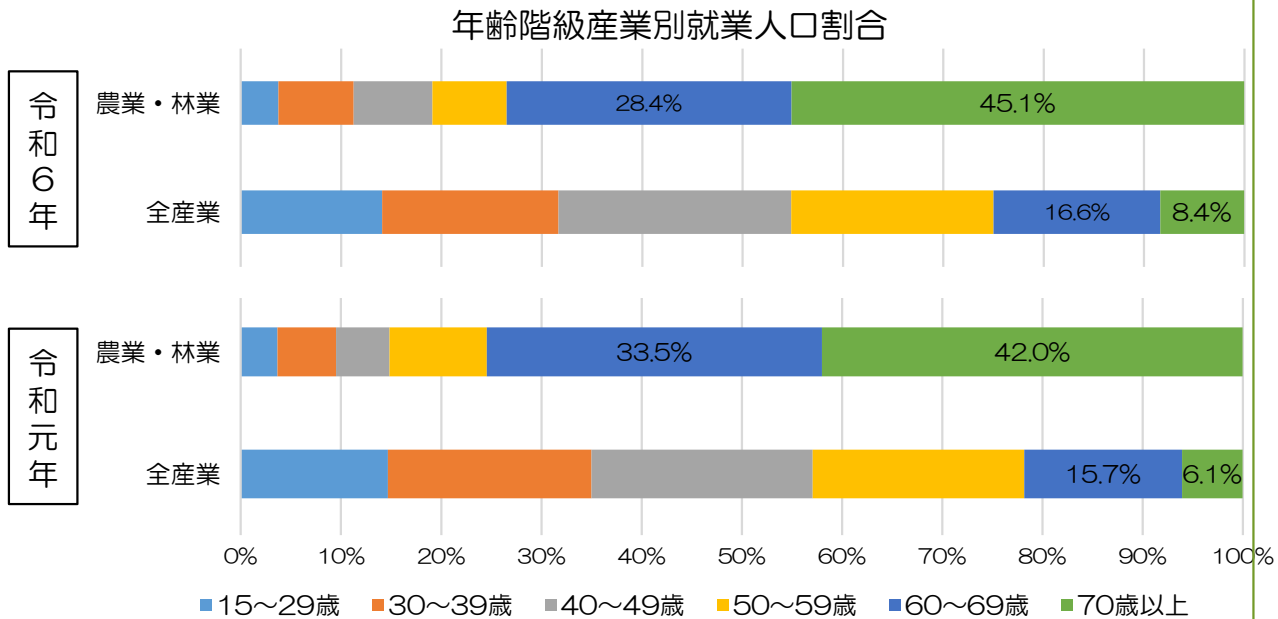
鳥取市の強み/特性/魅力

- 災害リスク回避面の優位性

鳥取市の分野別現状/課題 ⑥産業（農林水産業）

現状と主な課題・問題点

- ・市内農業産出額 (H30) 129億円→(R4) 140億円
- ・市内木材搬出量 (R1) 38,955m³→(R5) 34,833m³
- ・市内漁獲量 (R1) 2,203t→(R5) 1,698t
- ・市内の新規農業担い手数 (R1) 10件→(R5) 7件
- ・市内の新規林業従事者数 (R1) 6人→(R5) 8人
- ・市内の新規漁業就業者数 (R1) 0人→(R5) 1人



- ・農業従事者の高齢化や農村人口減少による、耕作放棄地や鳥獣被害の増加、地域の活力や農業・農村が持つ多面的機能の低下
- ・農業用施設の老朽化、営農環境の悪化による、農業経営の不安定化や離農者の増加

- ・災害が激甚化、頻発化する中、農業用防災重点ため池が被災し、下流域に被害が発生することへの懸念
- ・林業、漁業従事者の減少及び高齢化

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- ・不耕作地の増加
- ・従事者の高齢化や後継者不足
- ・蓄積された経験、ノウハウの継承危機

- ・農村や山林の荒廃が著しく、水田、里山など貴重な資産、美観、環境資源の存続危機
- ・生活の基盤を担う産業としての担い手確保、育成、地域経済の循環及び販路拡大による収入確保

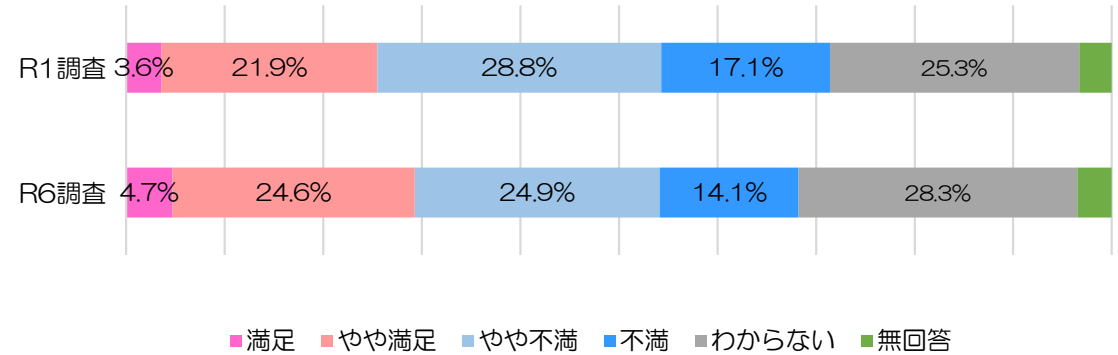
鳥取市の強み/特性/魅力

- ・ゆとりある田園都市生活や美しい自然環境
- ・多様な特産品（梨、らっきょう、カニなど水産物）が高い品質で地域ブランドとして全国的に評価されている
- ・精密農業や有機農業など先進的な農業技術の導入により生産性向上と環境保護の両立が図られている

現状と主な課題・問題点

- 観光入込客数 (R1)295万人→(R5)311万人
- 外国人宿泊者数 (R1)33,041人→(R5)28,116人
- 山陰海岸ジオパーク再認定（2024年～）

【市民アンケート調査】 観光・レジャー施設について



- 鳥取砂丘の滞在環境の一層の上質化
- インバウンド需要の増加に対応した受入環境の整備
- 二次交通の充実

- 麒麟のまち圏域など、広域観光連携による周遊性・滞在性の向上
- 観光資源の磨き上げと訴求力のある観光情報の発信

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- 外国人来訪者が増加しているが、もう一泊させる意識が希薄
- 鳥取市に多くある素材を生かせていない
- 観光地等へのアクセス
- 知名度不足
- 地域との連携不足

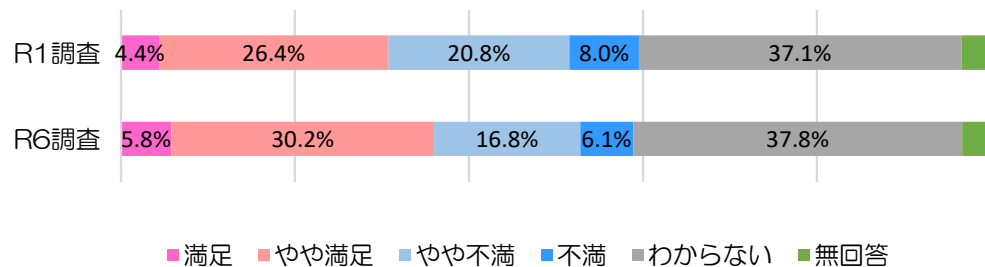
鳥取市の強み/特性/魅力

- 世界に誇れる鳥取砂丘。砂丘アクティビティも活発。
- 日本海の雄大な景色
- 駅や空港から、グルメ、温泉地、歴史、文化、観光などがコンパクトにまとまっている
- 毎日でも楽しめる食、環境が身近にある
- 空港まで距離が近い都市はそう多くなく、東京便が5便化されていることもあり、アクセスが良好である

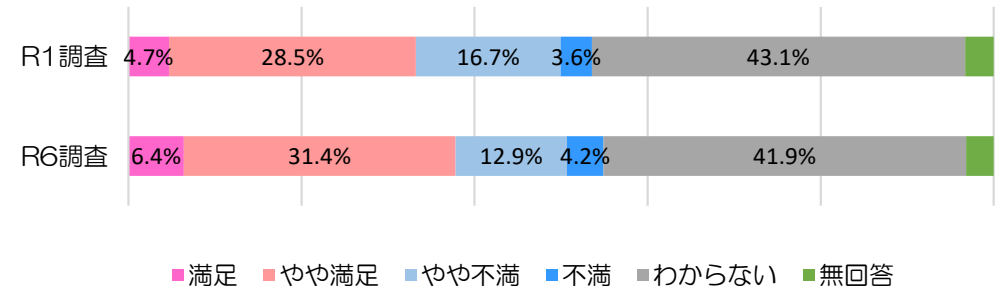
現状と主な課題・問題点

- ・市内文化活動団体連合組織への加入団体数 (R2) 203団体→(R5) 191団体
- ・文化芸術鑑賞者数 (R1) 61,280人→(R5) 56,780人
- ・主な文化財関連施設への入館者・指定文化財等の見学者数 (R1) 140,937人→(R5) 122,397人

【市民アンケート調査】 文化・芸術施設の整備について



【市民アンケート調査】 文化遺産、伝統芸能の保存、継承について



- ・市民会館、福祉文化会館、文化センター等施設・設備の老朽化
- ・文化芸術に携わる人材の高齢化。次世代育成の取組が必要

- ・有形無形を問わず、所有者、保持者を主体とする文化財の保存・継承・活用が困難になってきている

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- ・傘踊りや麒麟獅子舞など活性化しているものもあるが、若者の伝統文化芸術離れもあり衰退の危機。

鳥取市の強み/特性/魅力

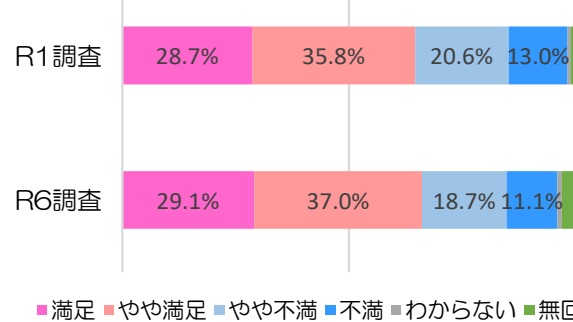
- ・文化芸術に触れる機会を市民の手でつくることのできる助成金制度が充実

鳥取市の分野別現状/課題 ⑨都市基盤

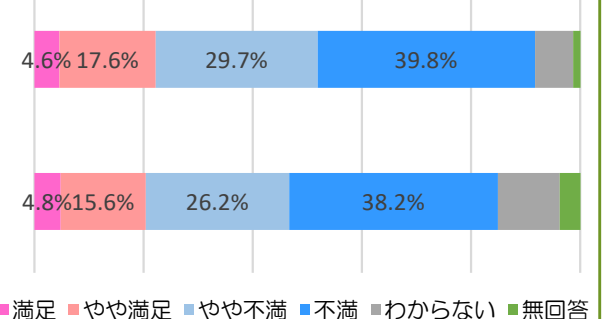
現状と主な課題・問題点

- ・移住定住者数 (R1)359人→(R5)451人
- ・路線バス（生活路線）年間利用者の推移 (R1)305万人→(R5)286万人
- ・鳥取砂丘コナン空港乗降客数 (R1)388,571人→(R5)374,648人
- ・中心市街地における歩行者、自転車通行量（休日） (R1)21,900人→(R5)16,628人
- ・公共下水整備率 (R1)95.3%→(R5)96.6%

買い物の便利さについて



鉄道、バスなどの交通の便について



- ・鳥取豊岡宮津自動車道の一部であり、本市の交通ネットワークの充実のためにも不可欠である（仮称）南北線の早期整備
- ・山陰新幹線の整備促進
- ・運転手の高齢化や人員不足により民間バス路線が減便する中での生活交通の確保及び利用者が減少する鉄道の路線維持
- ・老朽化したバスターミナルや周辺道路再編など、自動運転など次世代モビリティを見据えた交通ターミナル機能の再構築や賑わい創出の拠点機能、回遊性、利便性の向上。

- ・市域における移動等円滑化（バリアフリー化）の促進
- ・都市公園の8割以上が整備後30年を経過。公園施設の長寿命化対策が必要。
- ・将来空家等になる可能性がある特定空家等の増加
- ・上下水道部門での地球温暖化防止対策の推進と激甚化・局地化する災害への対応
- ・人口減少・施設の老朽化を踏まえた施設規模の適正化
- ・中山間地域における小規模高齢化集落の拡大や日常生活における交通や買い物などの利便性の低下

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- ・商業施設の空洞化。中心市街地の人通りが減少し、空き店舗、シャッター街が進行。若者の滞留する場所が不足している。
- ・ポテンシャルある空き店舗、空き地が未活用。中心部の住宅地においてさえ空き家問題が深刻化。
- ・鳥取駅前が玄関口であるにも関わらず、鳥取ならではの魅力を表現できていない

- ・面白い場所が点在しているものの周遊してもらうための整備が不足
- ・運転手不足に伴う路線バスの廃止、公共交通機関の整備不足。
- ・市街地の発展など新たな状況変化に対応したバス路線の再編。
- ・中山間地域の荒廃が進行
- ・市道沿道の除草
- ・居住人口減少や後継者不足、それらに伴う耕作放棄地や空き家の増加
- ・自然が豊か、コンパクトで過不足ない生活を維持できるが、全国多くの地方都市が抱く自己評価。その中で特出した差別化を図ることが課題。

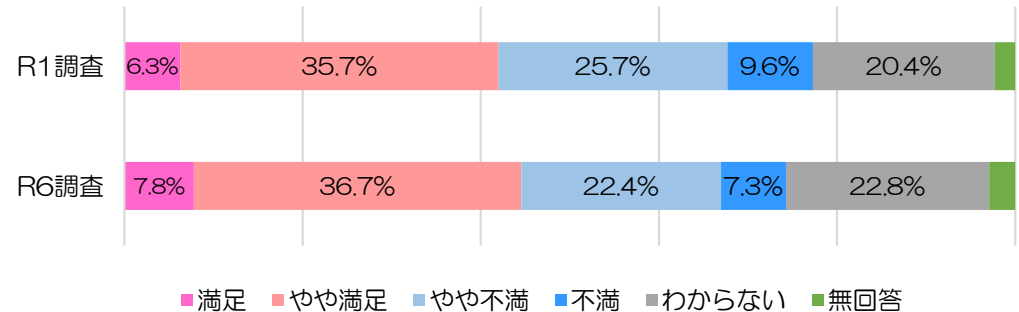
鳥取市の強み/特性/魅力

- ・鳥取駅～鳥取城跡のコンパクトなエリアに総合病院が2つ、図書館、温泉もある
- ・くる梨やとりモビなどの交通インフラもあり、高齢者が自動車なしで健康的に暮らしやすい土壌がある
- ・バランスのとれた生活環境が整っている。海山に近く、ゆとりある自然環境とコンパクトな市域に、買い物やレジャー、教育・医療資源も整い、比較的lowコストで生活でき、子育て世代から高齢層まで、過不足のない一定の満足感を得ることができる
- ・コロナ後、在宅ワークなど新しい働き方をする人にとって生活しやすい環境

現状と主な課題・問題点

- ・年間平均気温 (H3～R2平均) 15.2℃→(R3～R5平均) 16.1℃
- ・近年発生した主な災害
 - 令和5年7月 台風7号
 - 平成30年7月 西日本豪雨
 - 平成29年2月 33年ぶりの豪雪
 - 平成28年10月 鳥取県中部地震
- ・自主防災活動助成件数 (R1)553件→(R5)491件
- ・交通事故発生件数 (R1)262件→(R5)195件

【市民アンケート調査】 災害時の防災・避難体制について



- ・気候変動による気象現象の激甚化、頻発化
- ・人口減少による共助力の低下の懸念
- ・大規模災害への備え
- ・DX化推進による防災対応の変容

- ・犯罪手口の多様化、巧妙化による特殊詐欺の増加
- ・高齢運転者による交通事故発生への懸念
- ・多様化、複雑化する消費者問題への対応

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- ・人口減少、高齢化社会において、地域コミュニティの希薄化による災害時の共助が課題
- ・インフラ遮断時の孤立地域への支援、避難所環境整備
- ・自転車ルール徹底
- ・高齢者自動車運転への対策
- ・児童、生徒に対する金融教育

鳥取市の強み/特性/魅力

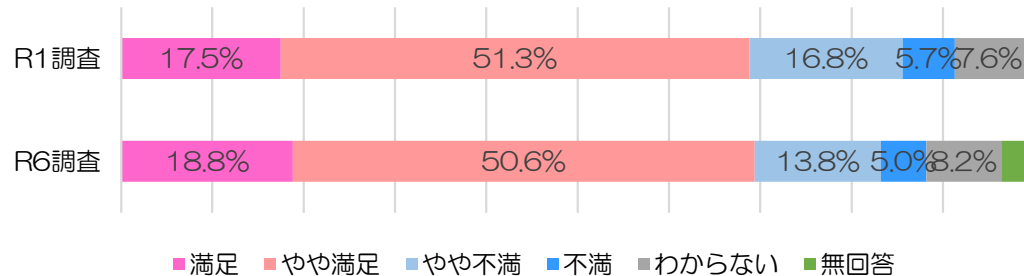
- ・行政区域は広域だが、災害時に地域の拠点となる総合支所や公共施設があること
- ・中山間地域では地域コミュニティが機能していること
- ・自主防災会がある程度機能していること
- ・地理的に、大災害発生リスクが比較的小さいこと
- ・都市部と比べて、自転車盗難や空き巣など軽犯罪リスクが低いと感じること

現状と主な課題・問題点

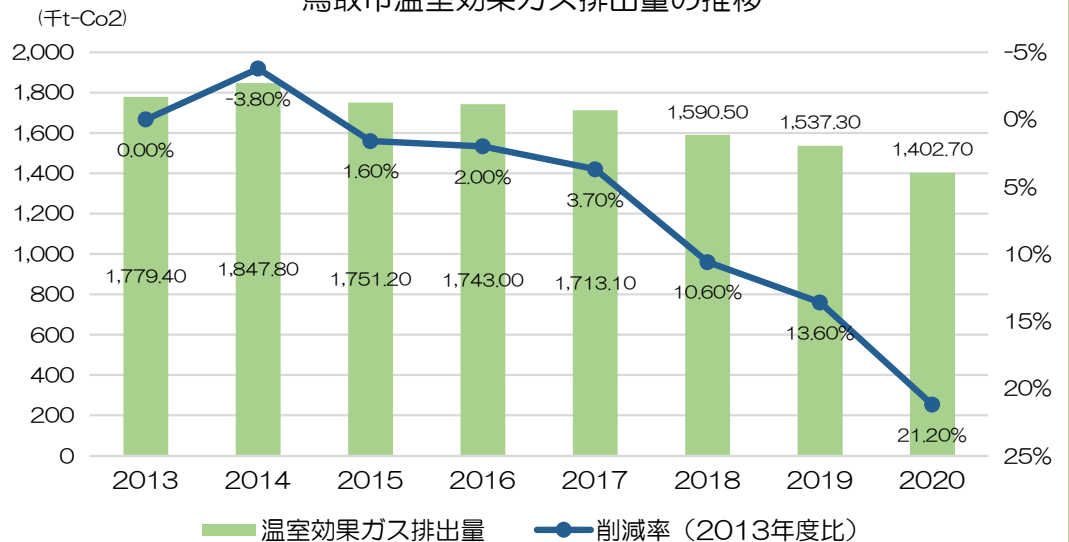
- 鳥取市の年間ごみ総排出量 (R1) 59,495t→(R5) 54,256t
- 一人一日あたりのごみ総排出量 (R1) 875g→(R5) 822g

【市民アンケート調査】

ごみの分別、リサイクル活動の推進について



鳥取市温室効果ガス排出量の推移



- 2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた温室効果ガス排出量削減目標の達成
- 再生可能エネルギーの導入促進

- EV(電気自動車)&FCV(燃料電池自動車)へのシフト
- 環境教育の充実・強化

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

- SDGs達成まで残り6年、気候変動の影響は年々大きくなってきており、さらなる取組が必要
- ゴミ、廃棄物の適切な処理ルートの確立、消費者の意識の向上、行動の変容を促す等が課題

鳥取市の強み/特性/魅力

- リンピアいなばではごみを燃やす際に出る熱を利用した発電を行っている
- 鳥取市は早くからリサイクル意識が高く、ノーレジ袋運動にも早くから取り組んでいる

現状と主な課題・問題点

- 市民愛着度 (R1)61.5%→(R6)55.9%
- 地域魅力度 (R1)181位→(R5)179位
- 麒麟のまち圏域の人口 (R1)255,065人→(R5)245,241人
- 市が管理する主なSNSのフォロワー数
(R2)20,655人→(R5)55,033人
- インターネットやケーブルテレビの情報通信環境の満足度
(R1)39.5%→(R6)42.6%
- 超高速インターネットサービス世帯充足率
(R1)91%→(R5)100%
- とっとり電子申請サービスの利用件数
(R3)16,335件→(R5)37,700件

【市民アンケート調査】

鳥取市から提供される情報をどのような手段で入手していますか。
(回答方法が異なるため上位項目を列挙)

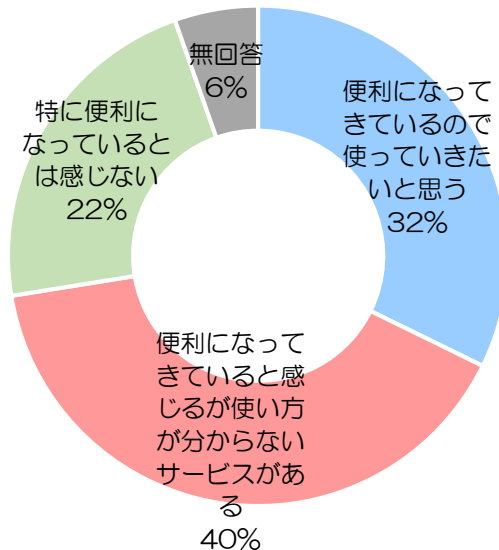
R6調査

- ①とっとり市報・市議会だより
- ②テレビ
- ③町内会の回覧板
- ④家族、友人、近所の人からの口伝え
- ⑤新聞・折込チラシ
- ⑥地元の情報誌・フリーペーパー

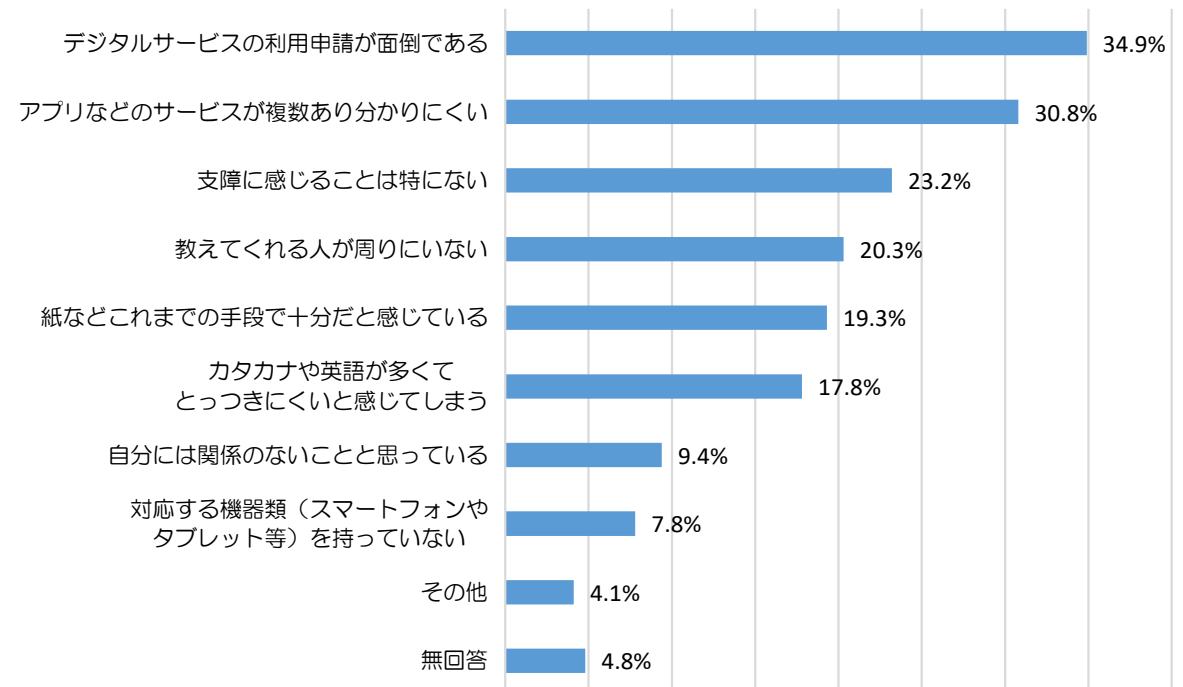
R1調査

- ①とっとり市報・市議会だより
- ②テレビ・ラジオ
- ③新聞
- ④町内会の回覧板
- ⑤近所の人や友人の口コミ
- ⑥市の公式ホームページ

行政サービスのデジタル化に 対してどう感じるか。



デジタルによる行政サービス利用の支障になっているものは何か。



現状と主な課題・問題点

【交流】

- ・鳥取市・岩美町・若桜町・智頭町・八頭町・香美町・新温泉町で麒麟のまち圏域を形成し、連携して魅力ある圏域づくりに取り組んでいる。
- ・麒麟のまち圏域の各市町では人口減少、少子高齢化が進行している。
- ・国内外の姉妹都市や交流都市との友好協力関係の維持と相互発展に取り組んでいる。

【情報発信】

- ・スマートフォンの普及など情報通信技術社会が進展し、誰もが手軽に膨大な情報を入手できるようになったが、一方で入手する情報の取捨選択が進んでいる。さらに効果的な情報発信が必要（市内外、国内外）。

- ・本市は、市報・公式ウェブサイトを始め、CATV、ラジオ、LINEなど主要なメディアを網羅して、市政情報を発信している。
- ・各種メディアによって提供されている市政情報が、十分に市民に伝わっていないことが、市民の市政に対する関心の低下の一因となり、また関心の低下が市政情報の積極的な入手行動の低下（取得する情報に選ばれない）に繋がる循環が生じていると考えられる。

【デジタル】

- ・人口減少や少子高齢化が進む中、今後、地域活力の維持向上を図り、行政サービスを安定的に提供していくためには、様々な分野の課題解決にデジタル技術を効果的に活用することが必要となっている。
- ・誰もがデジタルの恩恵を享受できる社会の実現に向けて、デジタルデバイドの解消が必要となっている。
- ・マイナンバーカード保有率向上と活用促進

市民等参加事業や総合企画委員会委員からいただいた主なご意見

課題・問題点

【交流】

- ・鳥取の大学から鳥取で就職する人が多くないこと
- ・鳥取出身で地元に関わりたいと考える人へのアプローチが弱い
- ・新しく入ってくる人を受け入れる意識の醸成

【デジタル】

- ・デジタル化により便利になってきていると思うが、使い方がわからないものがある

【情報発信】

- ・大学進学前の高校生に広く地元企業を知ってもらう機会を増やす必要
- ・セールスポイントを明確化すること。他地域との差別化による魅力発信、鳥取でも活躍できるというロールモデルの発信が重要。
- ・今の時代は情報が一番。受け手が自分で調べずとも伝わる必要がある。

鳥取市の強み/特性/魅力

- ・鳥取市は各種調査でも上位に入るなど、知名度、ポテンシャルは高い。
- ・Youtube等のシティプロモーションが戦略的に実施できている。
- ・因幡と但馬北西部は、古くから歴史や文化、生活圏を共有しており、「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」が形成されている。
- ・山陰海岸ジオパークという共通素材がある。
- ・テレワークができる環境が整っており、東京までの時間的距離も近いことため出社も対応しやすい

④鳥取市の将来のすがたについて

- 考え方・価値観や生活環境がこれまで以上に多様化する中、「鳥取市の将来」について思うこと、感じることは一人ひとり異なると思います。
- 鳥取市の将来を自分ごととして考え、市民みんなで取り組むまちづくりを進めていくためには、行政だけでなく市民も「こんなまちにしたい！」と思える将来像を描くことが必要です。

どんな鳥取市だったら

中高生など未来の鳥取市を
担う子どもたち

進学就職を控える若者

子育て世帯

高齢者

鳥取市で生計を立てる方

鳥取市に興味がある市外の方 など

が

暮らしたい

住んでみたい

帰って来たい

何か行動してみたい

と思えるでしょうか・・・？

委員の皆様にご意見を伺います。

鳥取市の将来のすがた（市民等参加事業や総合企画委員会委員の意見より。）

子育て・教育

子育て支援が充実するとともに、子育てにやさしい職場や社会となり、子どもたちが地域にあふれる、賑やかなまち

生徒たちが自分たちの文化に誇りを持つ

おいしい食、美しい自然を満喫し、楽しくのびのびと子育てをして若年人口が増えていくまち

市民・観光客ともに訪れたいまち

地域の伝統文化を継承する若者や女性のいきいきとしたまち

産業・交流・情報発信 文化芸術・文化財

郷土愛にあふれ、鳥取のために働こうと思う人材を生み出すまち

社会資源を有効に活用した地域包括ケアシステムが機能し医療・介護の不安が軽減されるまち

福祉・医療 スポーツ・人権・共生

高齢者が大切にされるとともに、活躍し、高齢者・若者・子どもがお互いを尊重し合い、生き生きと活躍しているまち

高齢者でも安心安全で不自由のない生活が送れるまち

居住者・勤労者・観光客が同じ空間・緑陰で憩えるまち

消費者・生活者が安心して暮らせるまち

食料、エネルギー等の地産地消、資源のリサイクルなどが進み、循環型社会へ近づいているまち

都市基盤・デジタル 防災・防犯・環境

全般

自分らしく生きていけるまち

好きなことができるまち

ひとりひとりが“自分なりの幸せ”を見つけられるまち

鳥取で生活することに幸せを感じられるまち

人口が少ないが一人ひとりが活躍できるまち

挑戦を応援しあうまち

チャレンジしてもいいかなと思えるまち

若者の希望がかなうまち

帰ってきたくなるまち、鳥取

みんなの居場所があるまち

ライフスタイルを選べるまち

全世代が揃ってわちゃわちゃしているまち

超先端自然優先都市

持続可能都市

自然と共存、共生できるまち

支え合い・協働のまち

バランスのとれた産業体系が整い、就業機会と起業支援策が豊かに準備された田園都市

地元の人や移住者、高齢者や若者がお互いを必要な人と認め合い日常を過ごすまち

誰もが交通移動の不安がなく誰一人取り残すことのない社会

若者の活躍を地域住民が温かく見守り支援するほほえましいまち

市民アンケートで「鳥取市の理想の姿」を30文字以内で表現していただいた回答を、テキストマイニングの手法を用いて単語やフレーズに分解しました。そして、それぞれの単語やフレーズを用いた人数が多いほど、その単語が大きく表示されています。



鳥取市の将来のすがた（市民アンケート：意見抜粋）

まちのなかにお金落ちるまち（観光客の方が食事する所が無いと言っていました）
安全、安心に暮らせるまち ひとが集いにぎわいのあるまち
自然と共生し、活気あふれる地域コミュニティが育つ鳥取
それぞれが優しさを持って暮らす事が出来る町
人が集い行き交うにぎわいのあふれるまちで人が安全・安心に暮らせるまち
若者が集える街をつくる必要がある。若者が住みたいと思える事が大切
高齢者が安心して生活できるまち。車がなくても移動手段が確立できているまち
自然と共生し、生き物にもやさしいまち
明るく楽しく笑って元気のある都市
漁業の街らしく漁業従業者への給与、保証の優遇を進めれば減少する若者へ呼びかける力になり増えていくと思う。
少子高齢社会でもどの世代の人も生きやすいまち
安全・安心に暮らせ機能的なまち
消滅しない町
災害に強く安全安心に暮らせるまち。みんなで支え合い”人”を大切にするまち
住民全体での支え合いによるまちづくりよっての安全・安心でにぎわいのあるまち
・家族の収入がそんなに高くなくても、共稼ぎで子どもを養っていける家庭
・「ああ、今日、みんながんばったね！」と言える家庭が素晴らしい。それを支える最低限の支援をお願いします。
安心、安全、助け合い、交流の機会を多く作るまち
ゆとりのある生活ができるまち
どこでも安心、どこでも心が通うまち
安心して子育てと仕事を両立でき、女性が活躍できるまち
安全に暮らせて活気のあるまち、向上心のあるとっとり市
困った人に助けの手をさしのべれるまち
今日行くところがある、今日する事がある、いつも自分の居場所がある。そんなまち“とっとり”
いざという時に選択肢があるまち
コンパクトシティ、車なしでも動けるにぎわいあふれる地域づくり
かくしごとの無い政治と市民を大事にする町
夏涼しく、冬暖かいまち
自ら誇りを持って鳥取人であると言える街づくり
親が子供にしばられず、子どもが親にしばられない楽しく暮らせるまち
鳥取市が充実して、子供達が将来ここで働いて生活したいと思える職種や土地があるといいなと思う。

多くの人とコミュニケーションがとれ支え合える町
専門、大学等で学んだ知識を活かせる職があるまち
県外からゆっくり余暇を過ごしたいと思えるような人の優しさ、自然を大切にする
住み易さ、子育てのしやすさが全国一のまち
自然を大切に後世に残す都市
県外からの人の流れを作り、経済的に活発になるまち
県外からやっぱり地元に戻りたいと思える環境。県庁所在地としての魅力がある都市
安心して何事も心配なく暮らせる生活。ゴミなども捨てられてないきれいな町
仕事の選択肢が増え大人が生き生きと生活でき、子どもたちも大人同様活発に楽しく暮らせるまち
歩道や車道が整備され、高齢者や自転車の学生等が安心して動けるまち
「雪国なのに困らないらしい」
これを目指して欲しい。
県外、国外にオープンで柔軟性な対応が出来る優しく、明るいイメージの市となること
IT化とAIの技術の進歩により、少ない労働力でも快適に暮らせる社会
子どもは社会の宝、どの子も大切に安心して子育て、仕事を両立できる町
人生100年ずっと居心地のいいまち、それがとっとり市
取りこぼさない？いいえ、「誰一人取りこぼされないまち」です。
すべて身近で完結できるまち
帰りたくなる、帰ってこれるまち
高齢化、少子化をふまえてAIを積極的に導入・推進する地方都市
災害に強い。1人暮らしの高齢者が安心して住めるまち
おひとり様でも安心して生涯を終える事のできる市
高齢者が多くなるので、一人一人を忘れないように皆がよりそえる鳥取市
赤ちゃん、じっちゃん、全世代が揃ってわちゃわちゃしてるまち
豊かな自然の恵みのもと安心・安全に暮らせる、自由な発想で若者の未来を支援する
どんな立場の人でも安心して住めるまち
鳥取市に愛着を持ち、鳥取で生活することに幸せを感じるられるまち
車いすでも生活しやすいまち
若い世代でも希望を持てる街
不満を持つ人の少ない都市
あらゆる立場の人びとが、安心していつでも助け合える環境にあるまち
自然と融合した持続可能な共生都市
AIやネット活用の中でも、程よくひとを大切にしよう社会
ダウンサイジングしながら地産地消で生き残りゲームに勝てる街
ずっと住み続けたいと思うまち
世界から尊敬・評価される鳥取市
ここに帰ってきたい、ここに住みたいと思うまち
年齢や性別に関係なく働ける。安心、安全のまち、笑顔のまち

Q.鳥取市はこれからどんなまちになる？（10文字程度）

- ・ 若者の希望が叶うまち
- ・ 世界一の健康長寿市
- ・ 意見が反映されるまち
- ・ 挑戦を応援し合うまち
- ・ 県外へ出た人が戻って来たいと思える街
- ・ ストレスの少ないまち
- ・ 空き家の活用
- ・ 活発な街
- ・ 誇れる
- ・ 交通の便が良い
- ・ 生涯鳥取人生
- ・ 強い産業のあるまち
- ・ 投票率が上がる鳥取市民の意識
- ・ 幸福度が高い町
- ・ 世代間交流が進み子どもを地域で育てられるまち
- ・ 若い子供連れが増える
- ・ 働く場所が選べるまち
- ・ 自分らしく生きていける
- ・ 文化に触れる機会が多い
- ・ 就職先が沢山ある
- ・ 一人ひとりが活躍
- ・ みんな一緒に暮らそうね
- ・ 安心して暮らせる街
- ・ 企業が多い
- ・ 自然と共存、共生
- ・ 日本一 安心で豊かなまち
- ・ 安心して暮らせるまち
- ・ ベビーブーム！！
- ・ 伝統文化、民藝があることが全国に知られる
- ・ 若者が多い街
- ・ 観光客が増えて鳥取が潤う
- ・ 大自然で大都会
- ・ 賑わいがあふれるまち
- ・ 子育てしやすい街
- ・ 遠くの人と事業が可能
- ・ 移動がしやすいまち
- ・ 車がなくても便利に生活できる
- ・ 落ち着いた街
- ・ 自然豊かだけどお店もいっぱいある街
- ・ 子どもが賑わう街
- ・ 住宅街やお店がある場所、施設や働く場所が、もっと増えれば良いな
- ・ 車の移動がしやすい
- ・ 買い物がしやすい
- ・ いろんなことを目指せる街
- ・ 学生が多い町
- ・ 鳥取と関わる人が多い
- ・ 者参加の元気な町
- ・ 遊ぶところが多いまち
- ・ 移動が簡単な街
- ・ 住み良い町
- ・ 活発な人が多い町
- ・ 楽しい街
- ・ とにかく若く！！
- ・ おしゃれなまち
- ・ 外国人から選ばれる町づくり
- ・ 皆が出かけようと思える
- ・ 共助が確立した街
- ・ 自然環境に沿ったまち
- ・ 住みたいと思える街
- ・ ごきげんな街
- ・ 移住者増加
- ・ 砂丘以外に、鳥取市しかないものを作り、県外、海外から観光客を集める。
- ・ 全て電子で完結するまち
- ・ 動物と共生できる町
- ・ 県外に行きやすい
- ・ 住みたい街
- ・ 鹿、猪、熊、猿などの野獣被害減少
- ・ 好きなことができる町
- ・ マリッジブーム！！
- ・ 宿泊施設を増やしてほしい！
- ・ 高齢者が活躍、必要以上に出生率に拘らない。
- ・ 誇れるふるさと
- ・ 1年に1回以上行きたいまち

⑤今後のスケジュールについて

令和6年度の主なスケジュール

令和7年1月頃	第4回総合企画委員会
3月頃	第5回総合企画委員会
令和7年3月	総合計画骨子・人口ビジョン素案完成

総合計画の策定方針／人口等に関する基礎資料

総合計画骨子（案）／人口ビジョン（素案）

令和7年度の主なスケジュール

令和7年4月～	次期総合計画基本計画、総合戦略検討開始
	総合企画委員会（複数回開催予定）
下半期	パブリックコメント、第12次鳥取市総合計画答申
令和8年3月	次期総合計画及び総合戦略策定

基本構想（素案）／人口ビジョン（案）